
資料

資料 1

住民アンケート調査集計結果

(調査設計)

1. 調査目的 本調査は、三戸町及び三戸町社会福祉協議会が「地域福祉計画」及び「地域福祉活動計画」を策定するうえでの基礎資料とすることを目的に実施している。
2. 調査対象者 20歳以上の三戸町民から無作為に抽出した1,000名
3. 調査方法 郵送により配布・回収
4. 調査期間 平成26年1月から2月17日
5. 回収結果 有効回答数 446件（回収率44.6%）

アンケート調査の概要について

1. あなたやあなたのご家族について

60代以上からの回答が全体の60%を占めています。家族構成については、最も多いのが二世帯世帯、次いで夫婦のみ世帯、三世帯世帯がほぼ同数となっています。

三戸町に住みたいというかという質問には、70%以上が住みたいと回答した一方で、およそ5%が住みたくなないと回答しています。

2. 隣近所との関わりについて

近隣関係については、親しくしているという回答は全体の約半数にとどまっていますが、80%以上が煩わしくも必要なことだと回答しています。

隣近所からの頼まれごとに対しては、安否確認の声掛けや、郵便物の預かり、また災害時の手助けといった質問には、いずれも70%以上ができると回答しています。一方、子どもの一時預かりや、冠婚葬祭の手伝いといった事には、できないという回答が多く見られました。

3. 日常生活の課題について

生活上の悩みについては、自分や家族の健康のことが最も多く、次いで収入に関すること、介護のことで続きます。

相談相手は、家族親戚との回答が最も多く、次いで、友人・知人という結果となりました。地区の暮らしやすさについては、すべての質問に対し、普通という回答が最も多い結果となりましたが、病院・医療や買い物の利便性、道路・交通機関などには、不満、やや不満という回答が比較的多く目立つ結果となっています。

4. 地域活動やボランティア活動について

ボランティア活動をここ5年間でしたことがあると回答した方は全体の40%にとどまりました。活動内容としては、町内会活動という回答が最も多く、回答者のおよそ30%が選択されています。活動の動機として、最も多かったのが、地域活動の一環という回答で、およそ20%の方が選択されています。次いで、持ち回りのため、仲間・友人を得る、と続く結果となりました。

ボランティア活動の悩みについては、人が集まらない、若手がない、マンネリ化しているという回答が上位を占めました。

ボランティア活動に参加したことがない理由については、仕事や家事などで忙しく、時間がないという回答が最も多く、20%以上の方が選択されています。

5. 福祉に関する情報について

回答者のおよそ40%が、自分もしくは家族が福祉サービスの利用経験があると回答しています。福祉に関する情報を得る手段については、町の広報という回答が最も多く、40%以上の方が選択されています。次いで多かったのが、社協だよりという回答で、およそ30%の方が選択されています。

どのような情報を得たいかという質問には、介護予防などの高齢者福祉の情報が最も多く、次に健康や生きがいの情報、福祉事業所に関する情報、という結果になりました。

6. 社会福祉協議会について

社会福祉協議会の名前も活動も知っているという回答された方は、約半数に留まりました。

社会福祉協議会の活動のなかで最も多く知られているのは、訪問介護事業という結果になり、40%以上の方が選択されています。次いで、社協だよりの発行、訪問入浴事業、赤い羽根共同募金運動と続き、共に30%を超える結果となりました。

今後、積極的に実施すべき事業という質問については、高齢者や障がい者の生活支援という回答が最も多く、50%以上の方が選択されています。次いで地域の支え合い、ふれあい、見守りという回答が多く、40%以上の方が選択されました。

7. 民生委員・児童委員について

名称も活動も知っているという回答された方はおよそ30%でした。

地区の民生委員をよく知っているという回答された方は30%を切る結果となりました。

8. これからの福祉のあり方について

こどもたちやその家族のための取り組みについては、安心して出産育児できる環境の充実という回答が最も多く、50%以上の方が選択されています。次いで保育サービスの充実、育児手当などの金銭的な支援と続く結果となりました。

母子・父子家庭への取り組みについては、働く場所の提供という回答が最も多く、60%以上の方が選択されています。次いで、父や母が病気をしたときの援助、経済的な安定と続く結果となりました。

高齢者への取り組みについては、入所施設の充実という回答が最も多く、50%以上の方が選択されています。次いで、健康づくりや医療体制の充実、在宅福祉サービスの充実と続く結果となりました。

障がいのある人たちへの取り組みについては、困りごとへの相談支援体制の充実という回答が最も多く、50%以上の方が選択されています。次いで、職業訓練と就労場所の充実、自立生活を送るための教育、生活訓練という結果になりました。

地域で健康づくりをすすめていくための取り組みについては、健康に関する情報提供の充実という回答が最も多く、40%以上の方が選択されています。次いで、地域ぐるみの健康づくり運動の推進、健診についての周知という結果になりました。

住み慣れた地域で安心して暮らしていくための取り組みについては、介護、福祉サービスの充実という回答が最も多く、50%以上の方が選択されています。次いで、社会福祉に関する情報提供、緊急時や災害時に助け合う仕組みづくりという結果になりました。

災害が起きた時、誰を頼りにするかについては、家族や親せきという回答が最も多く、80%以上の方が選択されています。次いで、近所の人、行政という結果になりました。

地域の災害時の備えとして必要なことについては、日頃からのあいさつや声掛けという回答が最も多く、50%の方が選択されました。次いで、町内会を中心とした住民相互の交流、行政による支援体制、という結果になりました。

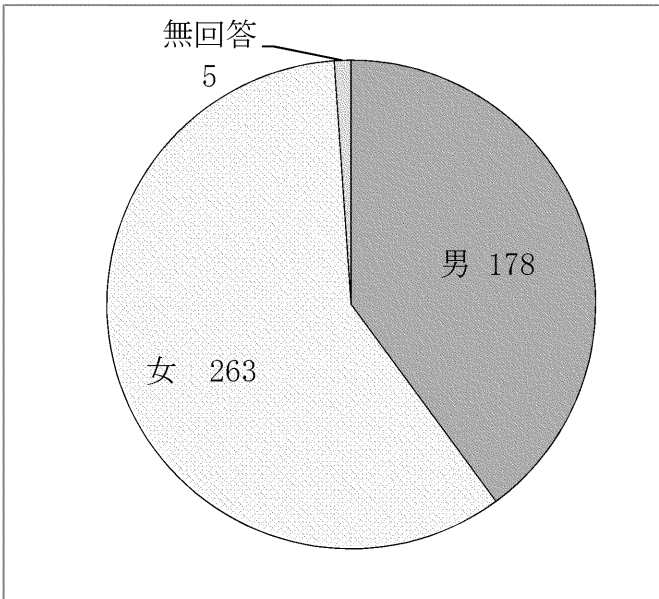
1. あなたやあなたのご家族について

問 1

あなたの性別についてお答えください。

1. 男

2. 女



問 2

あなたの年齢についてお答えください。

1. 20代

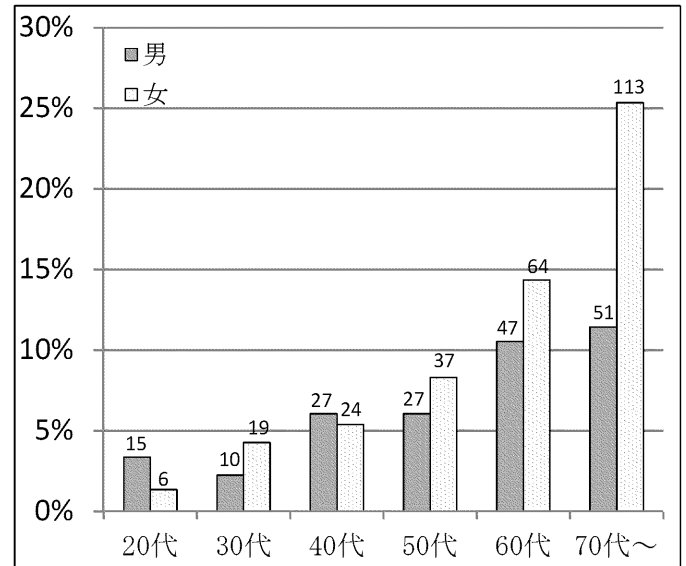
2. 30代

3. 40代

4. 50代

5. 60代

6. 70代以上



問 3

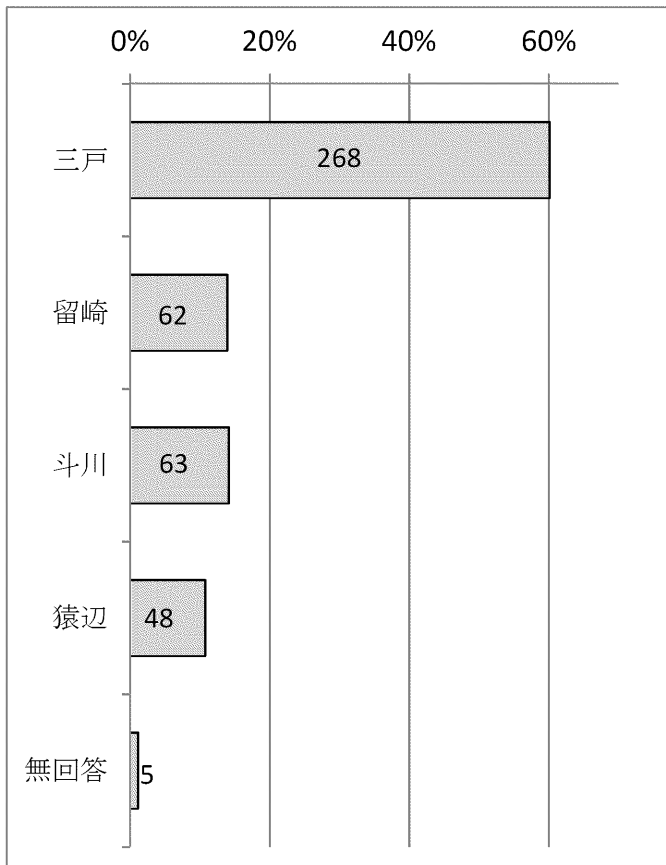
あなたのお住まいの地区はどこですか。

1. 三戸

2. 留崎

3. 斗川

4. 猿辺



問 4

あなたの職業についてお答えください。

1. 自営業

2. 会社員、団体職員

3. 公務員、教員

4. 農業等

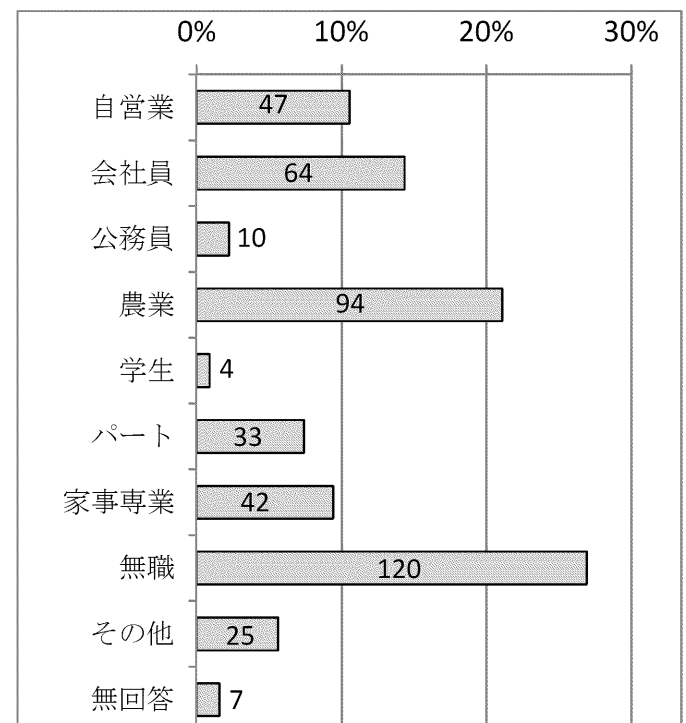
5. 学生

6. パート、アルバイト

7. 家事専業

8. 無職（求職中含む）

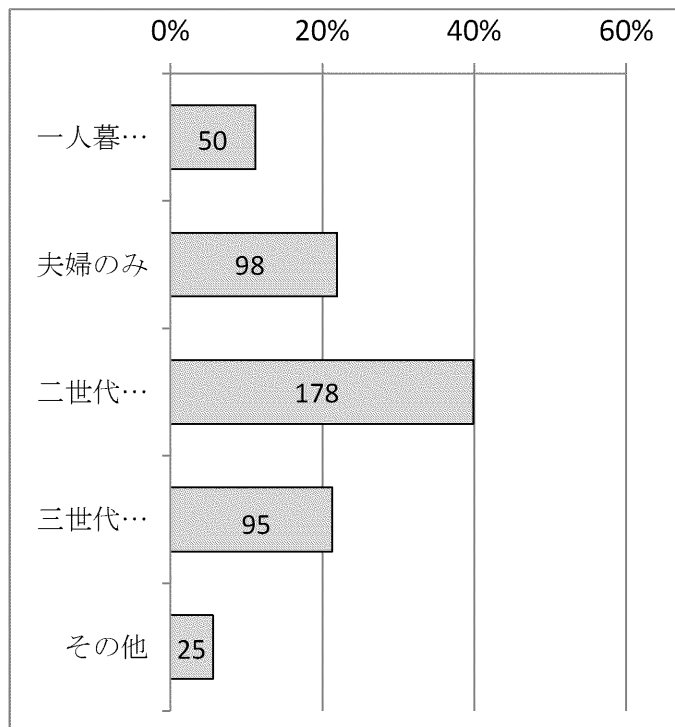
9. その他（会社経営、福祉作業所通所他）



問 5

あなたの家族構成についてお答えください。

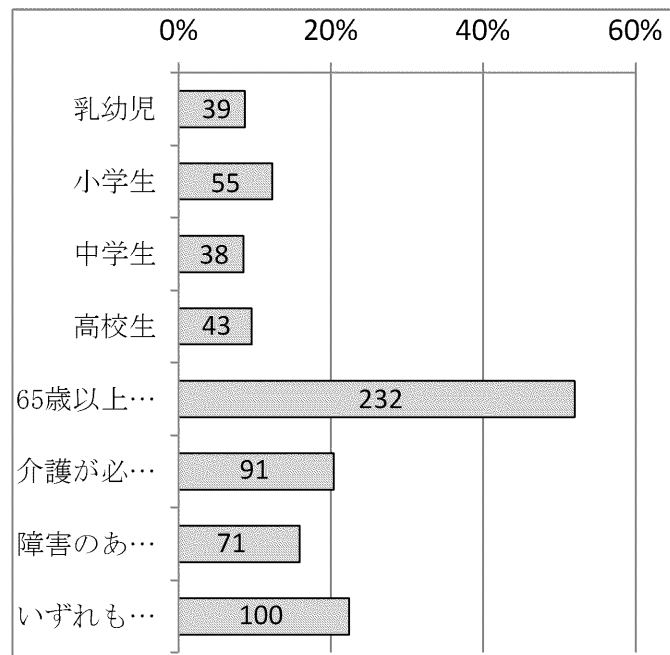
1. 一人暮らし 2. 夫婦のみ 3. 二世世代世帯
4. 三世世代世帯 5. その他



問 6

あなたが一緒に住んでいる家族で、次のような人はいますか（あなた自身も含みます）。

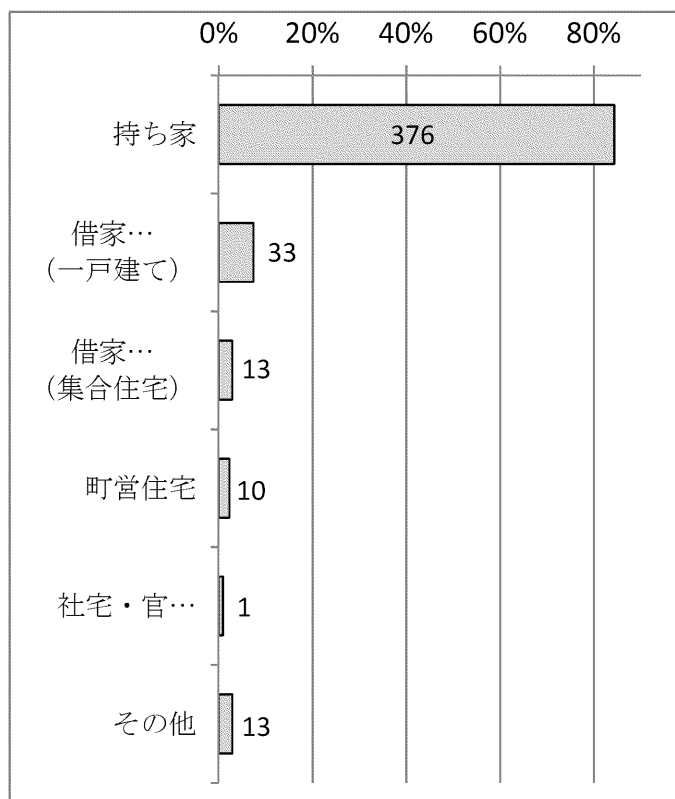
1. 乳幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生
5. 65歳以上の人 6. 介護を必要とする人
7. 障害のある人 8. いずれもない



問 7

あなたの住まいについてお答えください。

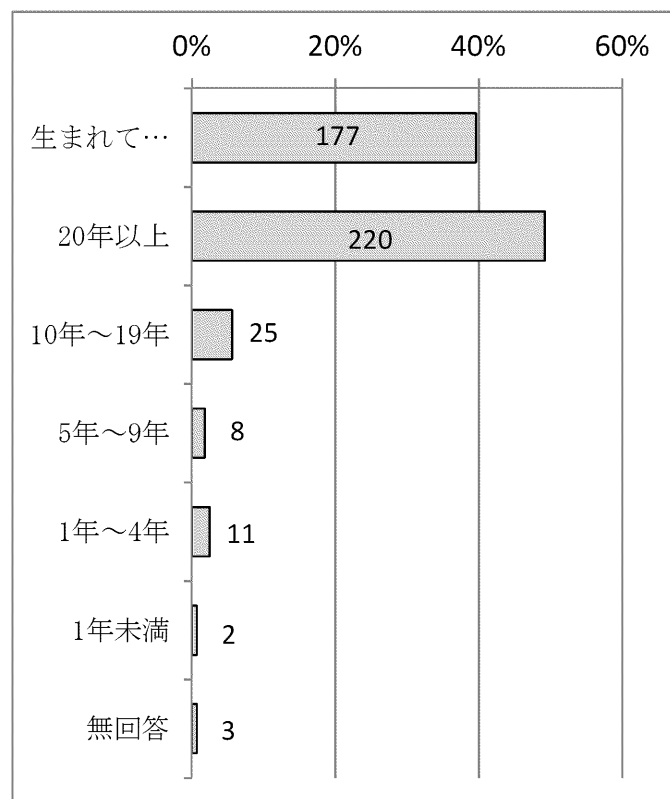
1. 持ち家 2. 借家・賃貸住宅（一戸建て）
3. 借家・賃貸住宅（集合住宅） 4. 町営住宅
5. 社宅・官舎・寮 6. その他



問 8

三戸町に何年ぐらいお住まいですか。

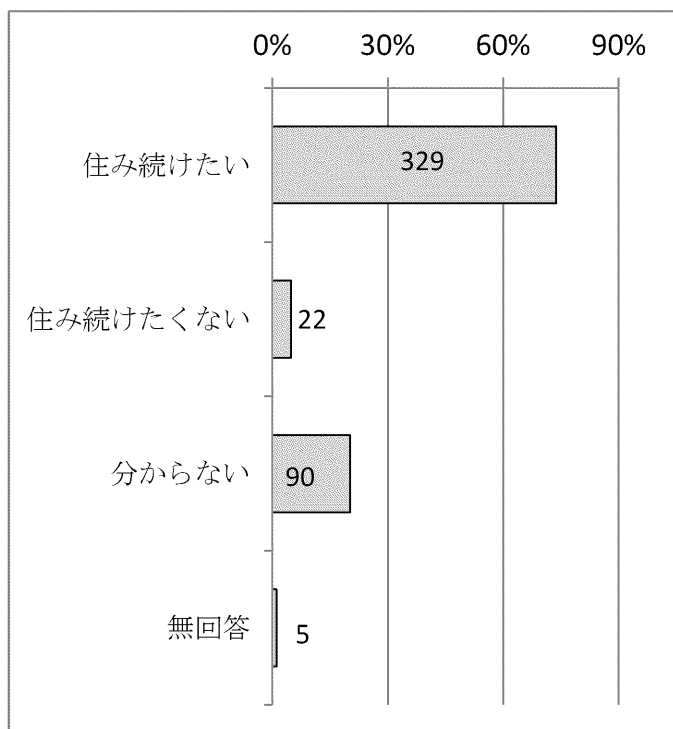
1. 生まれてからずっと 2. 20年以上
3. 10年～19年 4. 5年～9年
5. 1～4年 6. 1年未満



問 9

これからも三戸町に住み続けたいと思いますか。

1. 住み続けたい 2. 住み続けたくない
3. 分からない

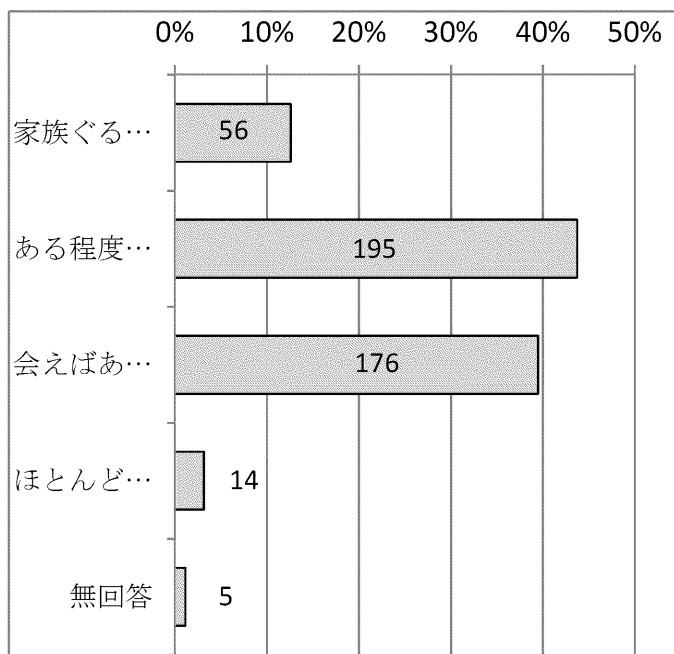


2. 隣近所との関わりについて

問 10

普段、近所の人とどの程度の付き合いをしていますか。

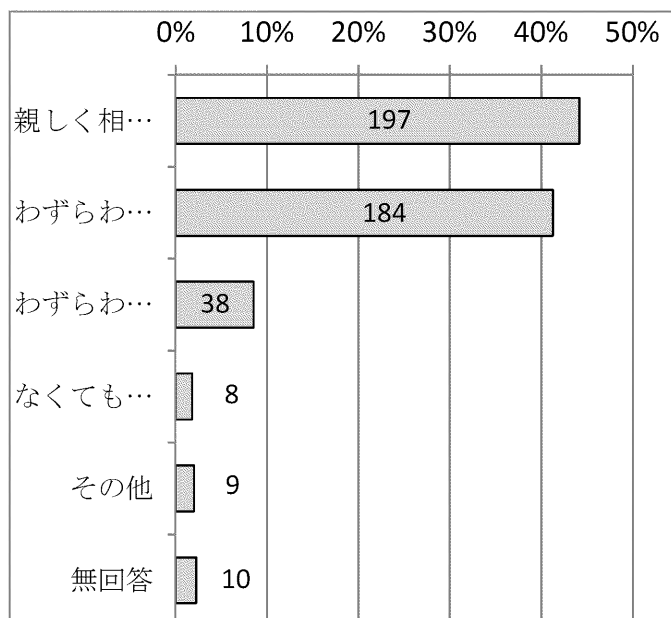
1. 家族ぐるみでとても親しくしている
2. ある程度親しくしている
3. 会えばあいさつする程度の付き合い
4. ほとんど（まったく）付き合いはない



問 11

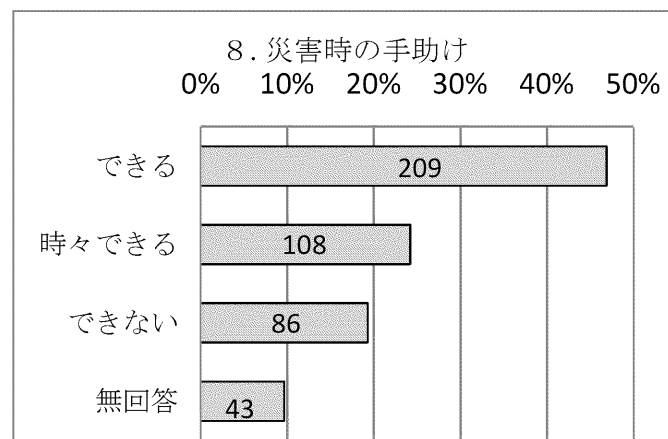
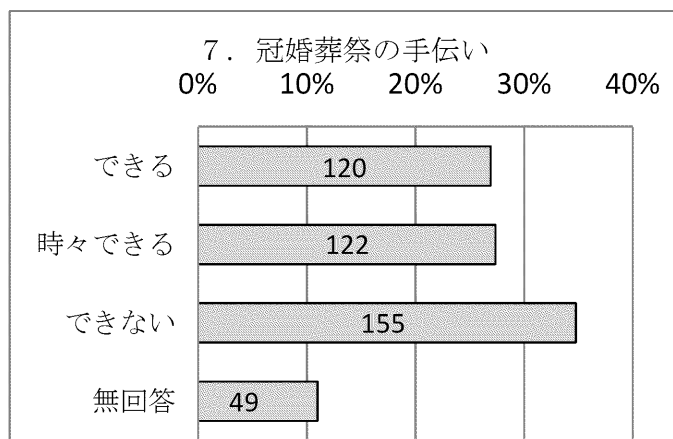
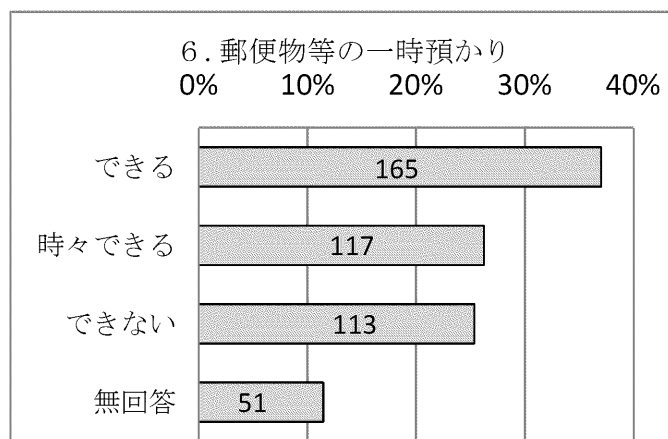
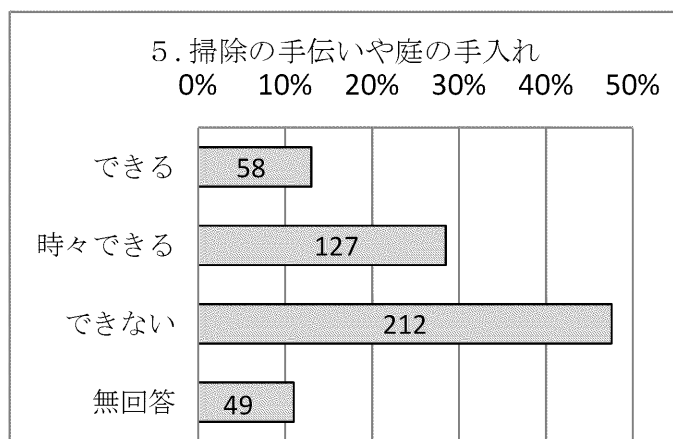
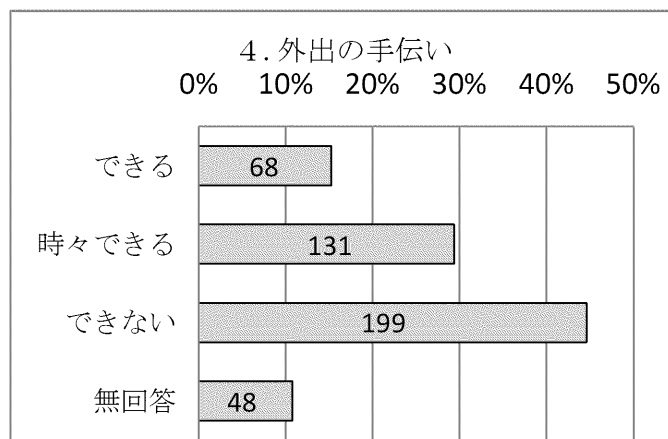
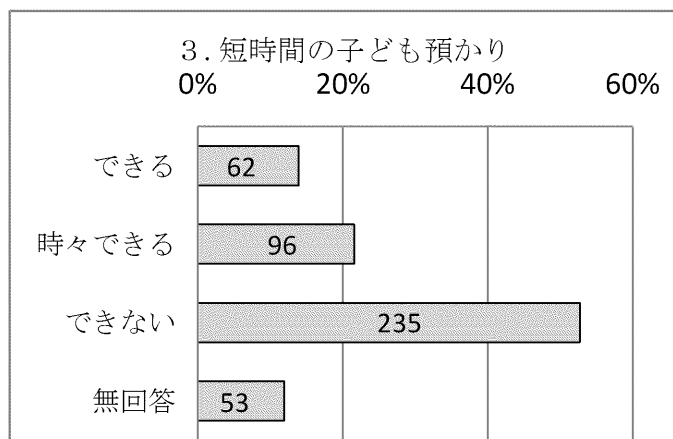
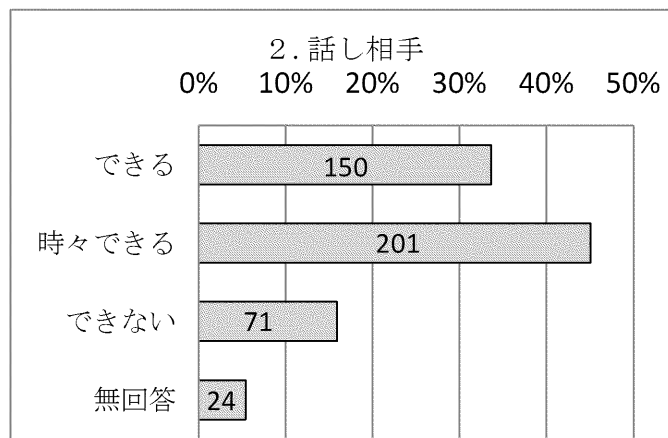
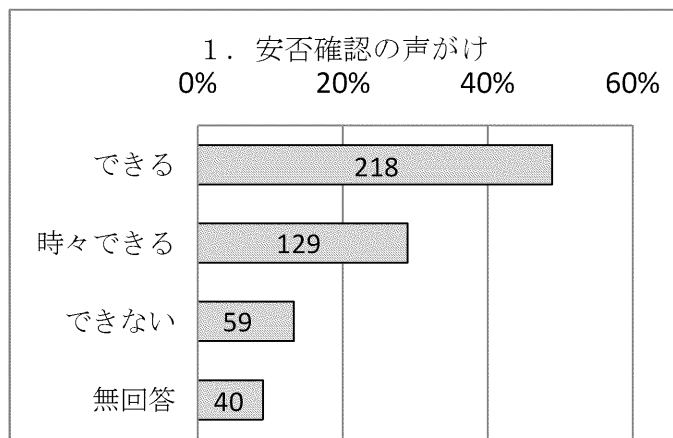
近所の人との付き合い方に関する、あなたの考え。

1. 親しく相談し合ったり助け合ったりするのは当然
2. わずらわしく感じることもあるが、日常生活の中で必要
3. わずらわしいことが多いので、あまりしたくない
4. なくても困らないので、したくない
5. その他



問 1 2

あなたは近所の人から頼まれた場合、どのようなことができると思いますか。

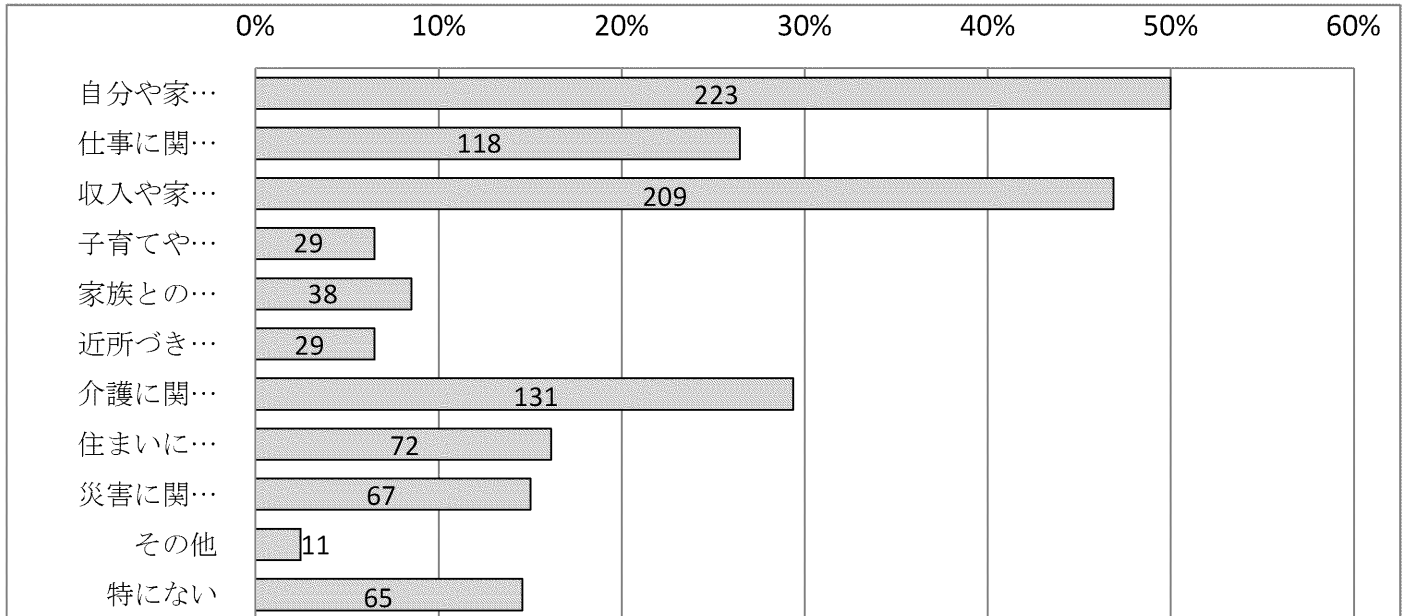


3. 日常生活の課題について

問 1 3

普段の暮らしの中で、悩みや不安、困っていることはなんですか。

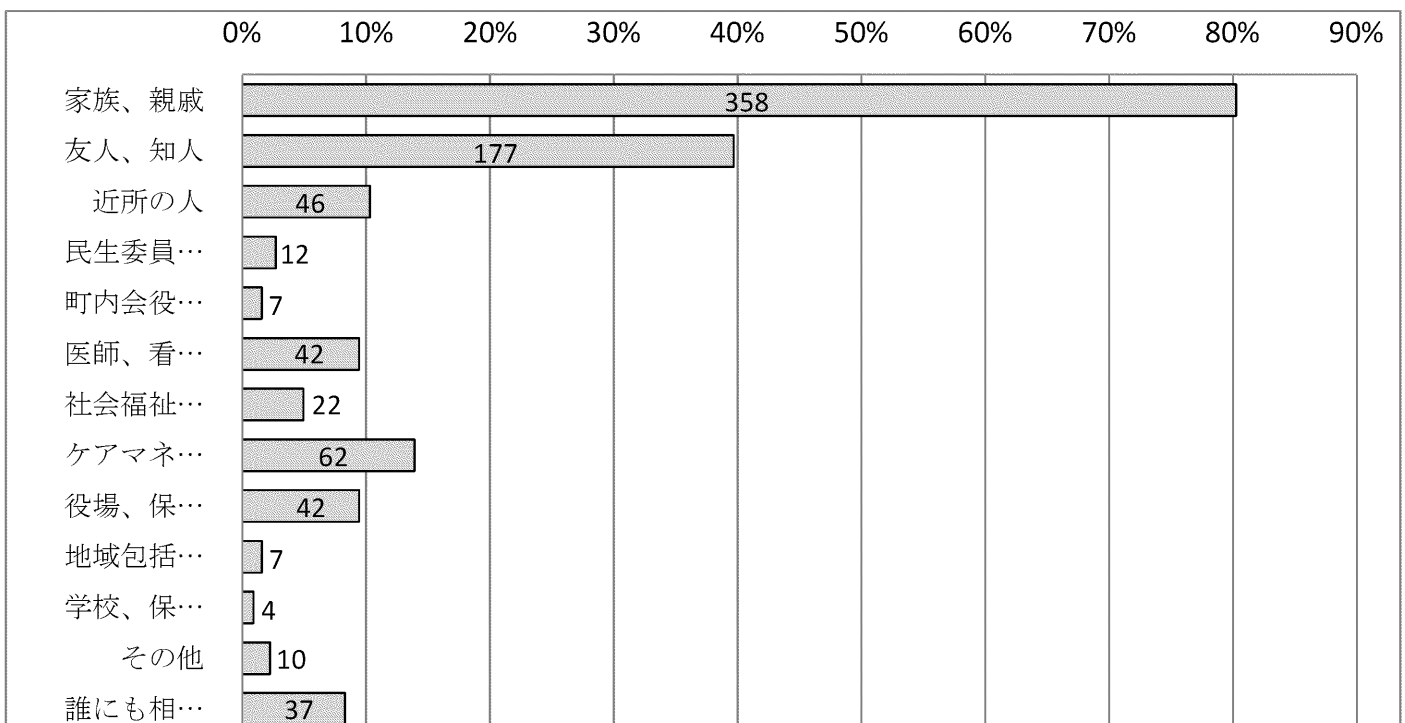
- | | | |
|------------------|-------------|----------------|
| 1. 自分や家族の健康に関する事 | 2. 仕事に関する事 | 3. 収入や家計に関する事 |
| 4. 育児や子育てに関する事 | 5. 家族との人間関係 | 6. 近所づきあいに関する事 |
| 7. 介護に関する事 | 8. 住まいに関する事 | 9. 災害に関する事 |
| 10. その他 | 11. 特にな | |



問 1 4

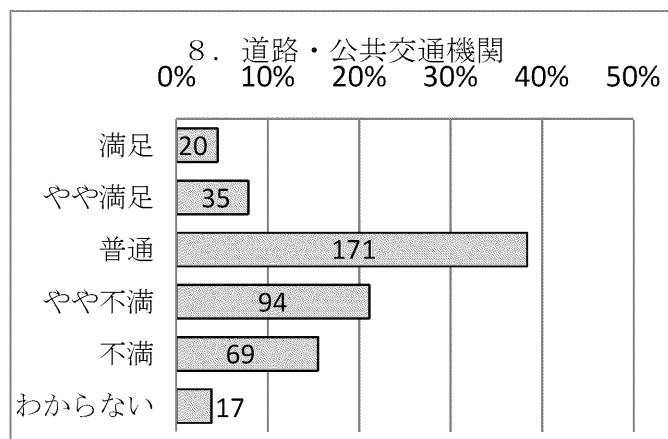
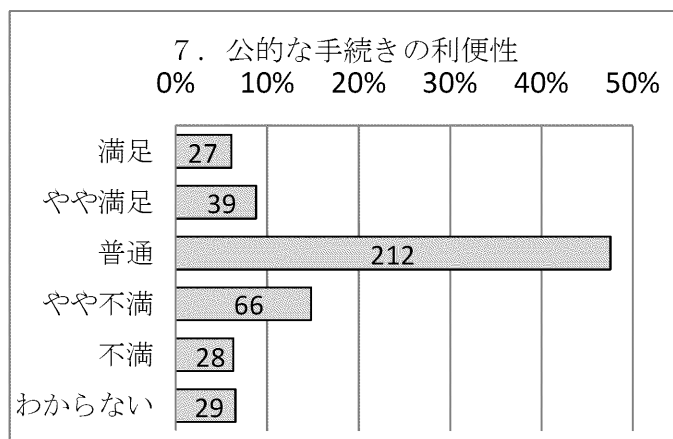
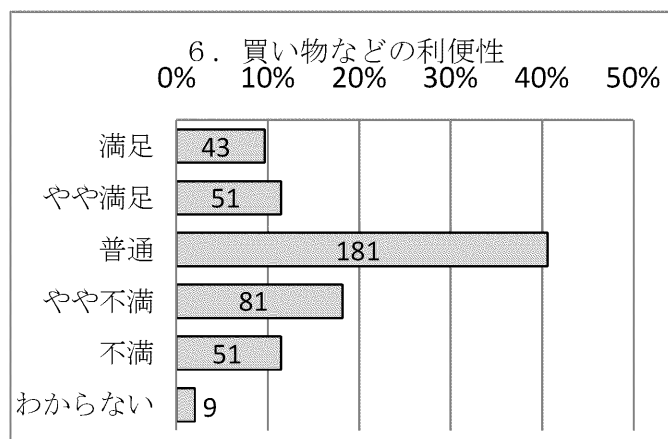
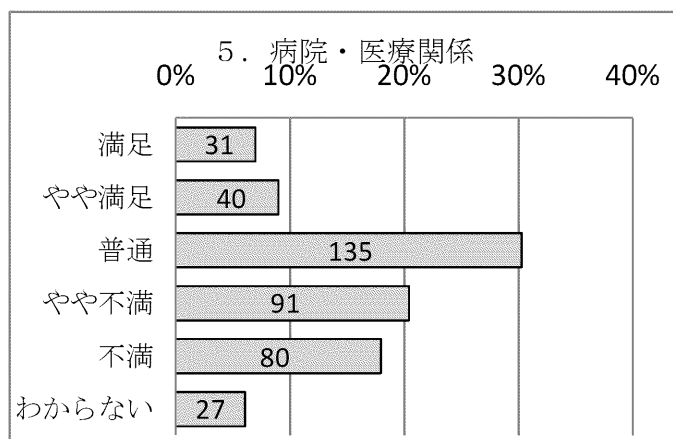
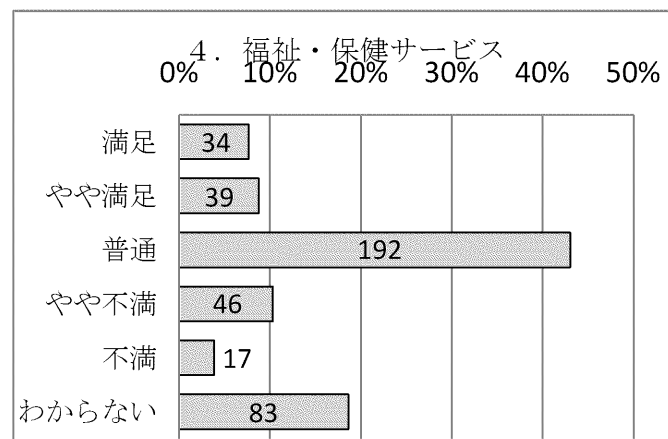
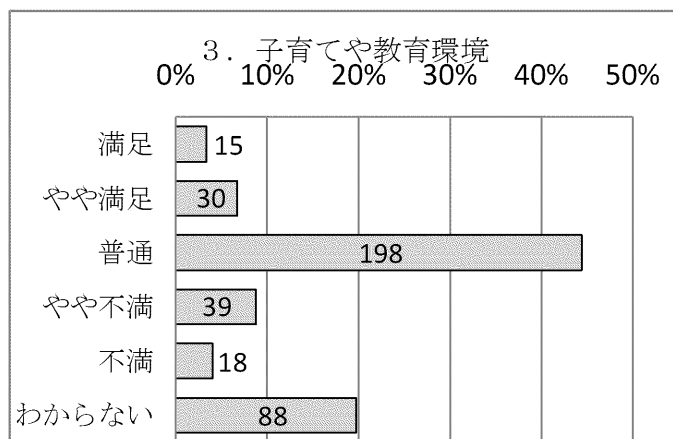
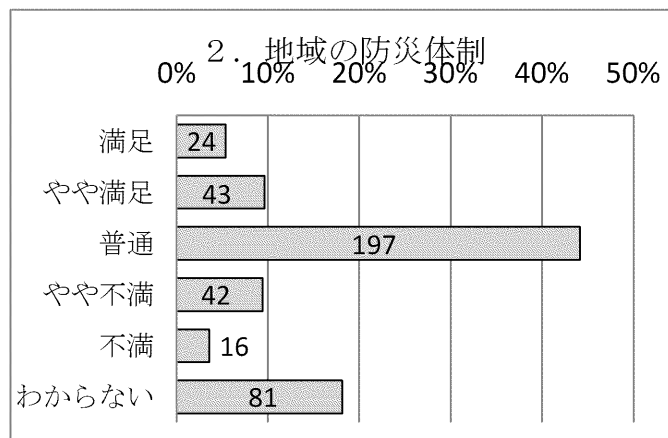
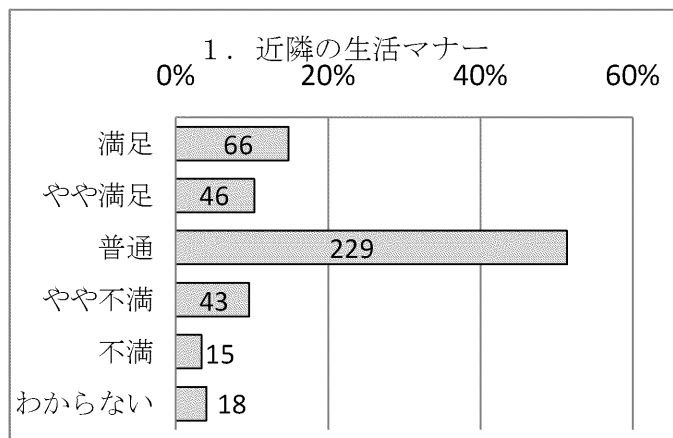
悩みや不安、困ったことがあるとき、誰に相談していますか。

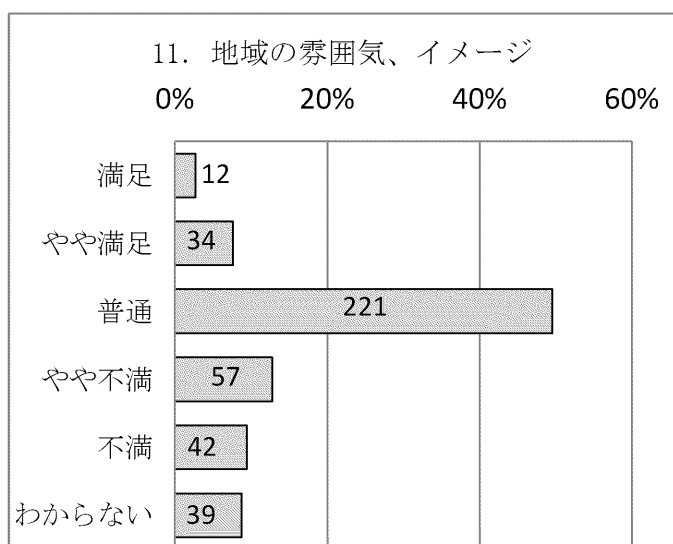
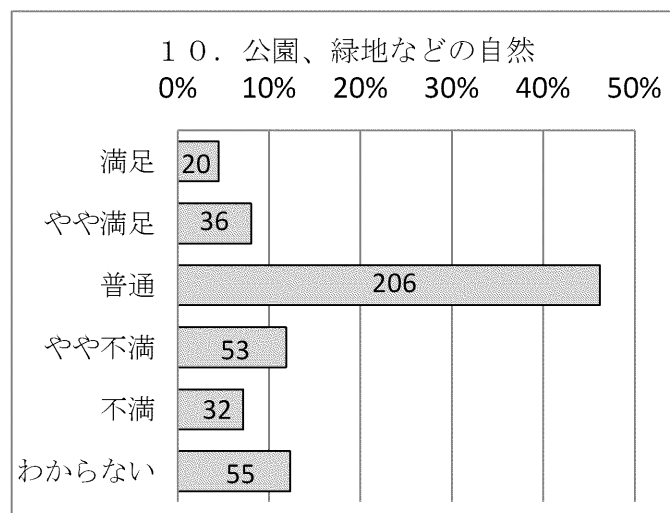
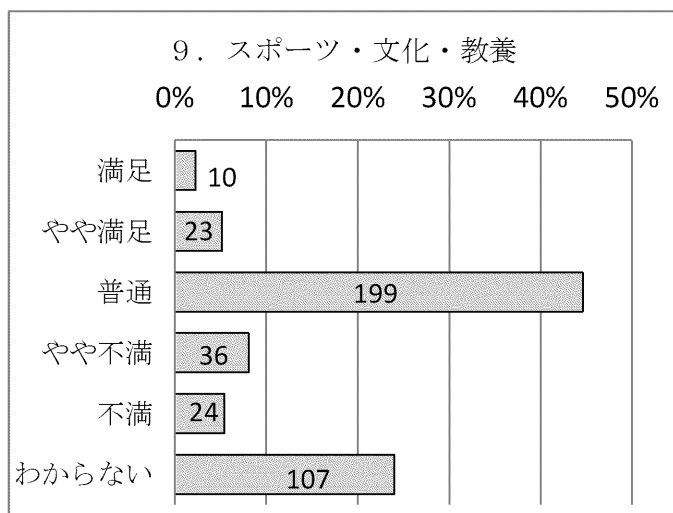
- | | | | | |
|----------------|----------------|-------------|--------------|----------|
| 1. 家族、親戚 | 2. 友人、知人 | 3. 近所の人 | 4. 民生委員・児童委員 | 5. 町内会役員 |
| 6. 医師、看護師等 | 7. 社会福祉協議会 | 8. ケアマネージャー | 9. 役場・保健センター | |
| 10. 地域包括支援センター | 11. 学校・保育所・幼稚園 | 12. その他 | 13. 誰にも相談しない | |



問 1 5

あなたが住んでいる地区の暮らしやすさはいかがですか



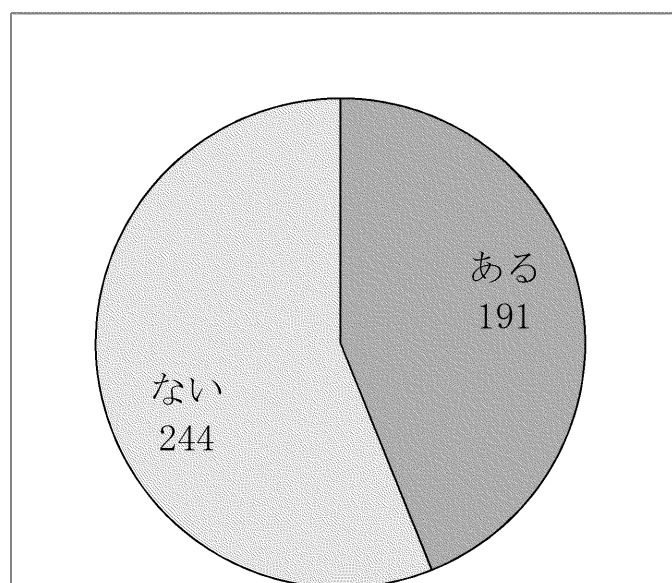


4. 「地域活動やボランティア活動」について

問 16

ここ5年間で、地域活動やボランティア活動をしたことがありますか。

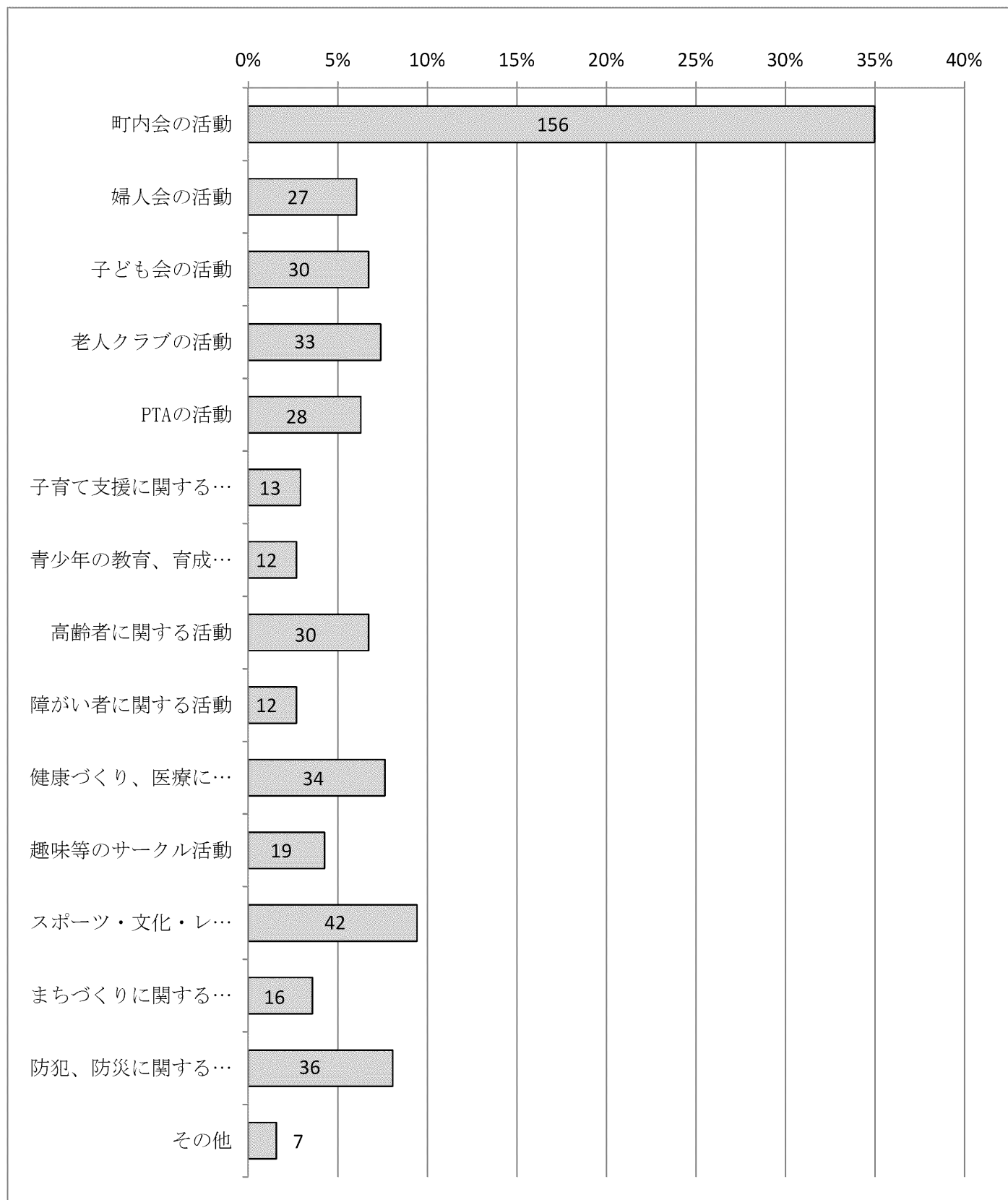
1. ある 2. ない



問 1 6 - 1

※問 1 6 で“ある”と答えた方
それはどのような活動ですか。

1. 町内会の活動 2. 婦人会の活動 3. 子ども会の活動 4. 老人クラブの活動 5. PTAの活動
6. 子育て支援に関する活動 7. 青少年の教育、育成に関する活動 8. 高齢者に関する活動
9. 障がい者に関する活動 10. 健康づくり・医療に関する活動 11. 趣味等のサークル活動
12. スポーツ・文化・レクリエーション活動 13. まちづくりに関する活動
14. 防犯、防災に関する活動 15. その他

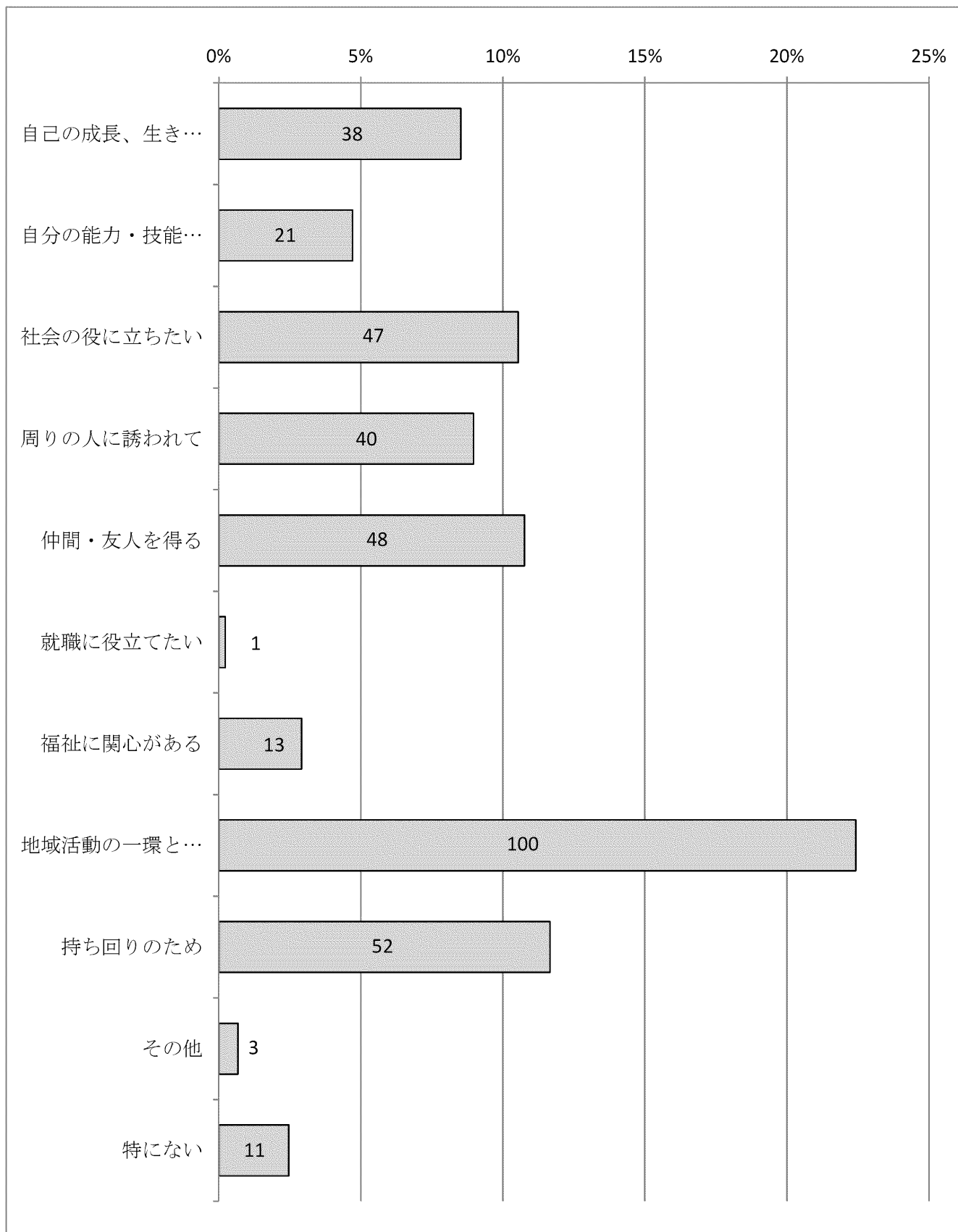


問 16-2

※問 16 で“ある”と答えた方

地域活動やボランティア活動をする動機はなんですか。

1. 自己の成長、生きがいとして 2. 自分の能力・技能を活かしたい 3. 社会の役に立ちたい
 4. 周りの人に誘われて 5. 仲間・友人を得る 6. 就職に役立てたい
 7. 福祉に関心がある 8. 地域活動の一環として 9. 持ち回りのため 10. その他
 11. 特にない

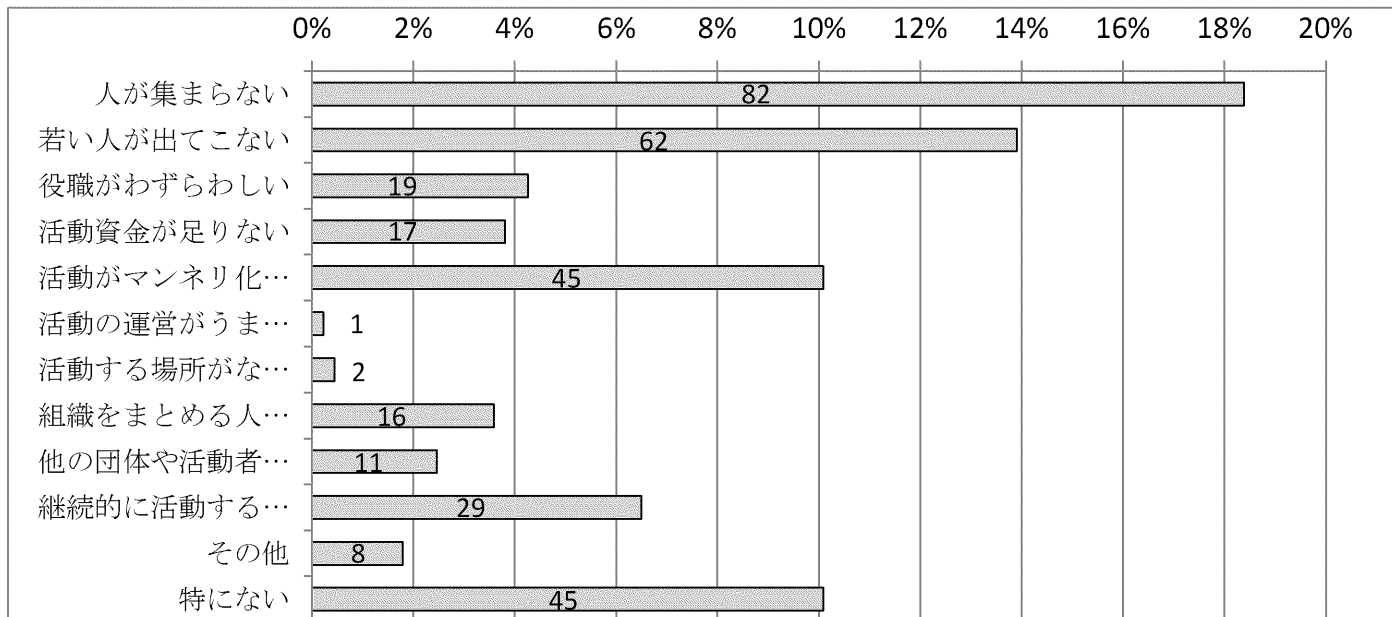


問 16-3

※問 16 で“ある”と答えた方

地域活動やボランティア活動の中で困ったこと、苦労したことがありますか。

1. 人が集まらない 2. 若い人が出てこない 3. 役職がわずらわしい 4. 活動資金が足りない
5. 活動がマンネリ化している 6. 活動の運営がうまくいかない 7. 活動する場所がない、少ない
8. 組織をまとめる人が少ない 9. 他の団体や活動者との連携が難しい
10. 継続的に活動することが難しい 11. その他 12. 特にない

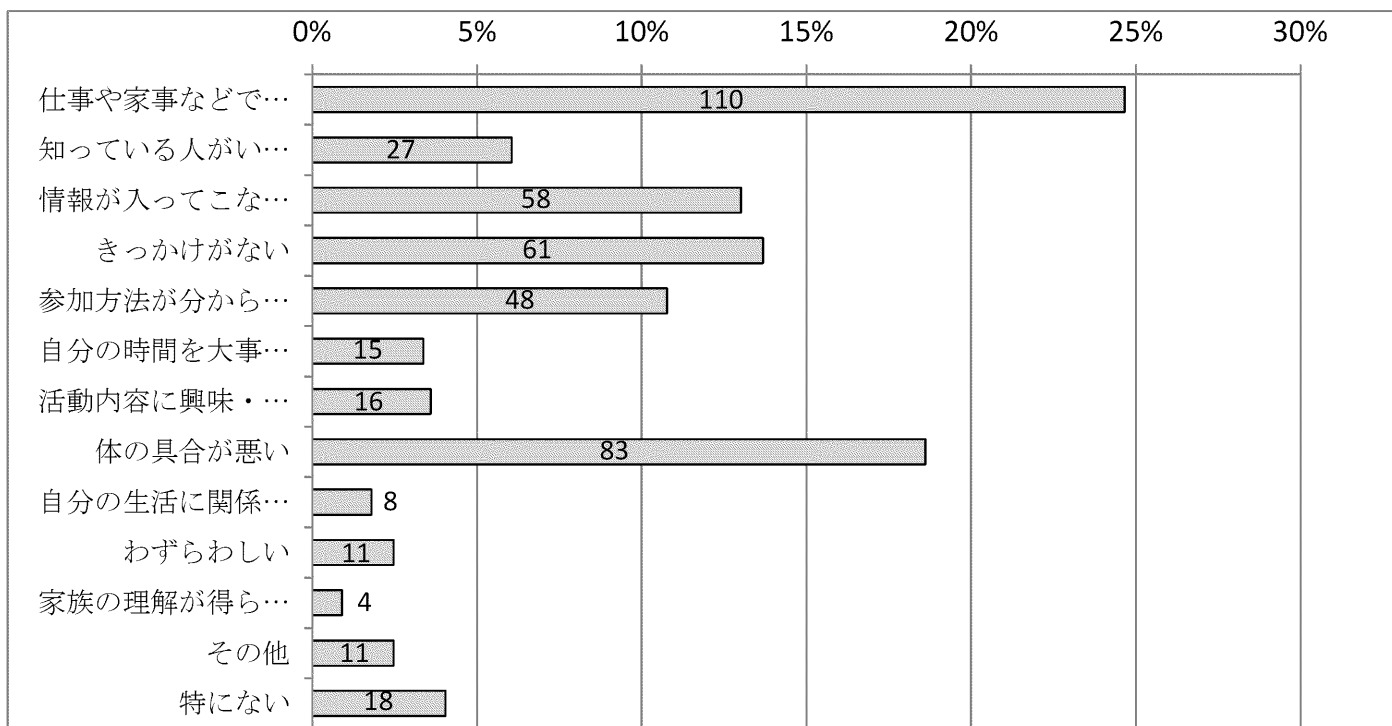


問 16-4

※問 16 で“ない”と答えた方

参加したことがない理由はなんですか。

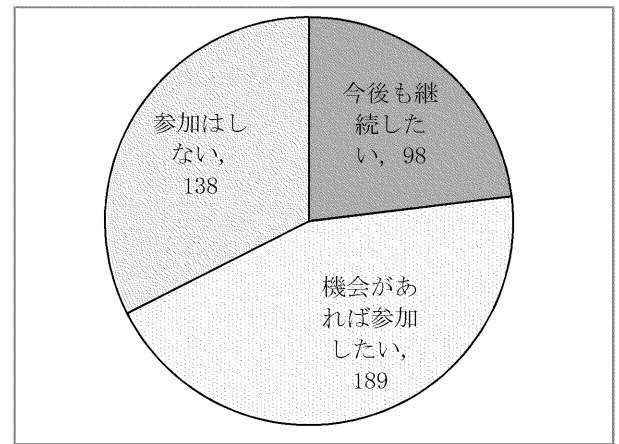
1. 仕事や家事などで忙しく、時間がない 2. 知っている人がいない 3. 情報が入ってこない
4. きっかけがない 5. 参加方法が分からない 6. 自分の時間を大切にしたい
7. 活動内容に興味・関心がない 8. 体の具合が悪い 9. 自分の生活に関係ない
10. わずらわしい 11. 家族の理解が得られない 12. その他 13. 特にない



問 17

今後、ボランティア活動をしたい（続けたい）と思いますか。

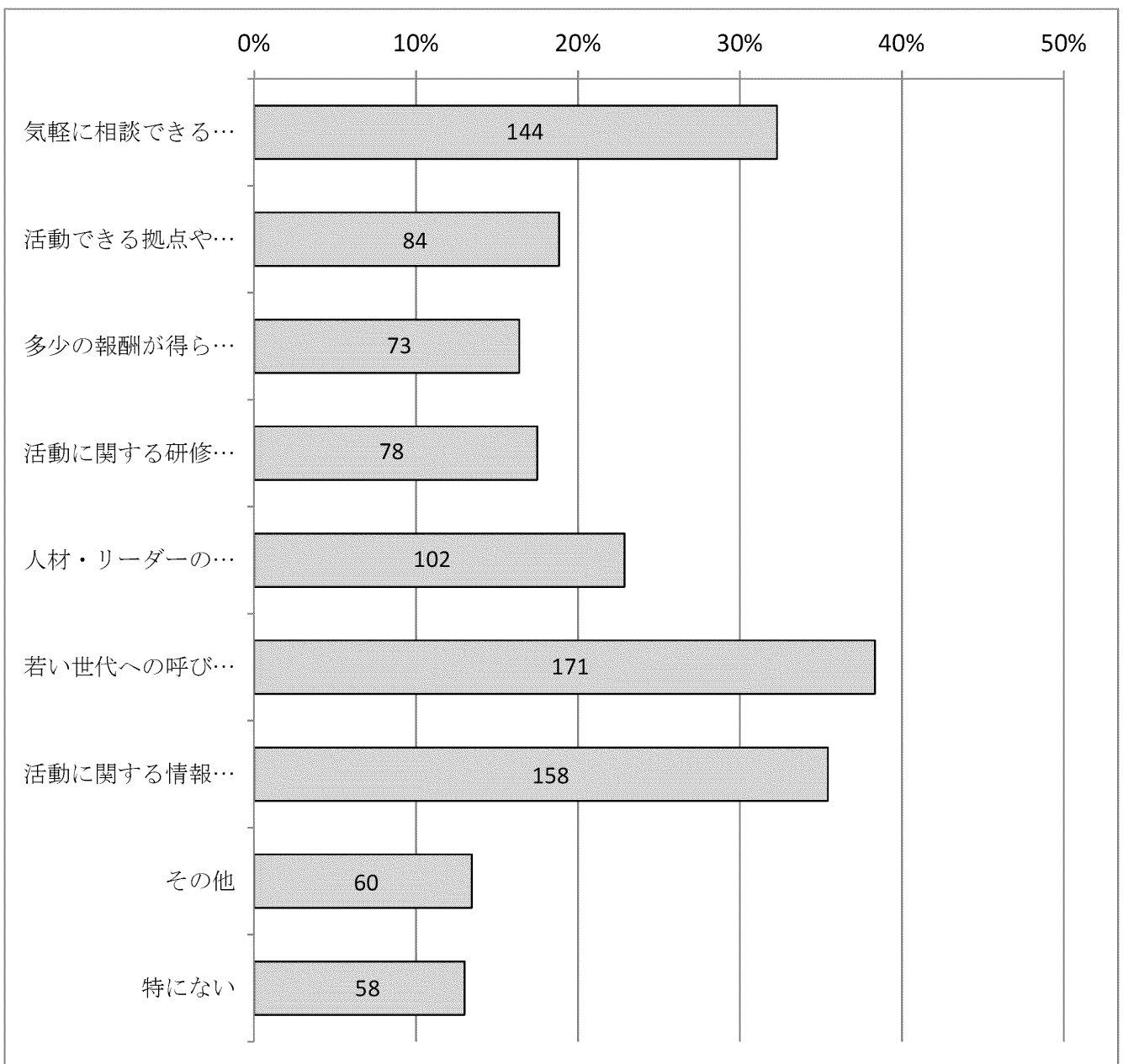
1. 今後も継続して参加したい
2. 現在は行っていないが、機会があれば参加したい
3. 参加するつもりはない



問 18

今後、ボランティア活動をすすめていく上で、どのようなことが必要だと思いますか。

1. 気軽に相談できる窓口の設置
2. 活動できる拠点や場所の整備
3. 多少の報酬が得られる仕組み
4. 活動に関する研修や講習会の開催
5. 人材・リーダーの育成
6. 若い世代への呼びかけ
7. 活動に関する情報の積極的な発信
8. その他
9. 特にない

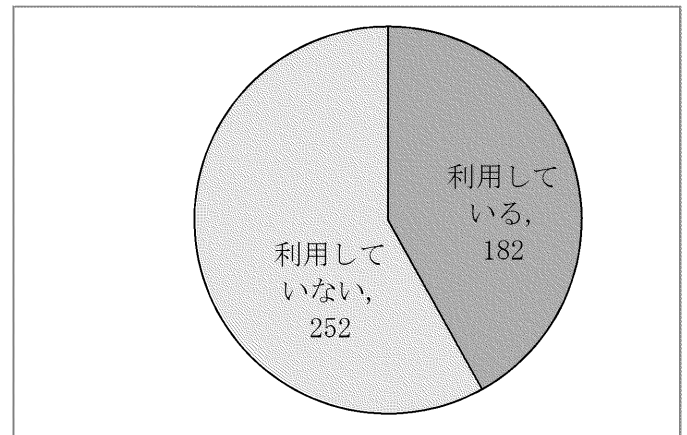


5. 福祉に関する情報について

問 19

あなたやあなたの家族の中で、福祉サービスを利用している人はいますか。

1. 利用している（したことがある）
2. 利用していない（したことがない）

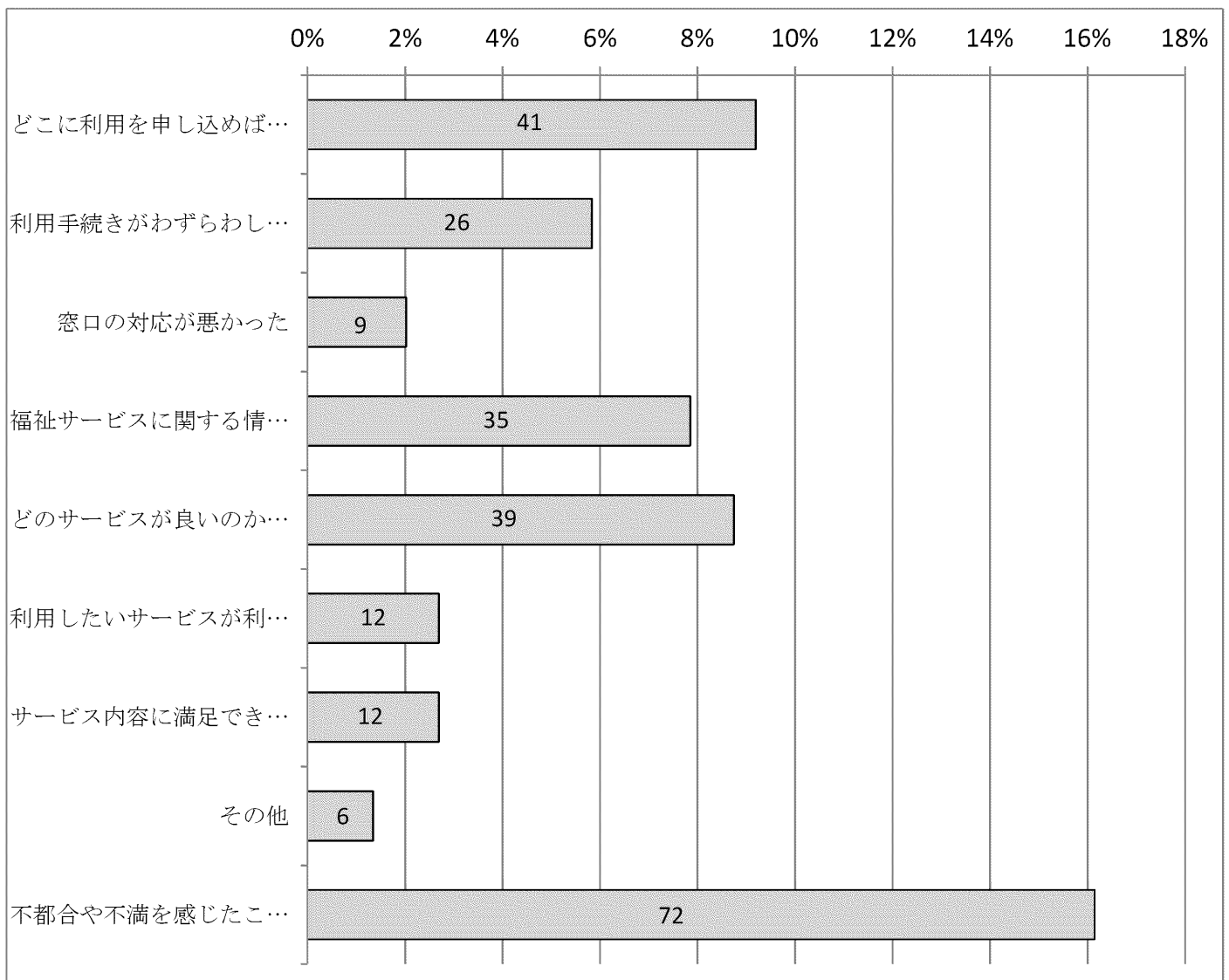


問 19-1

※問 19 で利用経験があると答えた者

これまでに福祉サービスを利用して不都合を感じたり、不満に思ったことはありますか。

1. どこに利用を申し込めばいいか分からなかった
2. 利用手続きがわずらわしかった
3. 窓口の対応が悪かった
4. 福祉サービスに関する情報が入手しづらかった
5. どのサービスが良いのか分からず、選びにくかった
6. 利用したいサービスが利用できなかった
7. サービス内容に満足できなかった
8. その他
9. 不都合や不満を感じたことはない

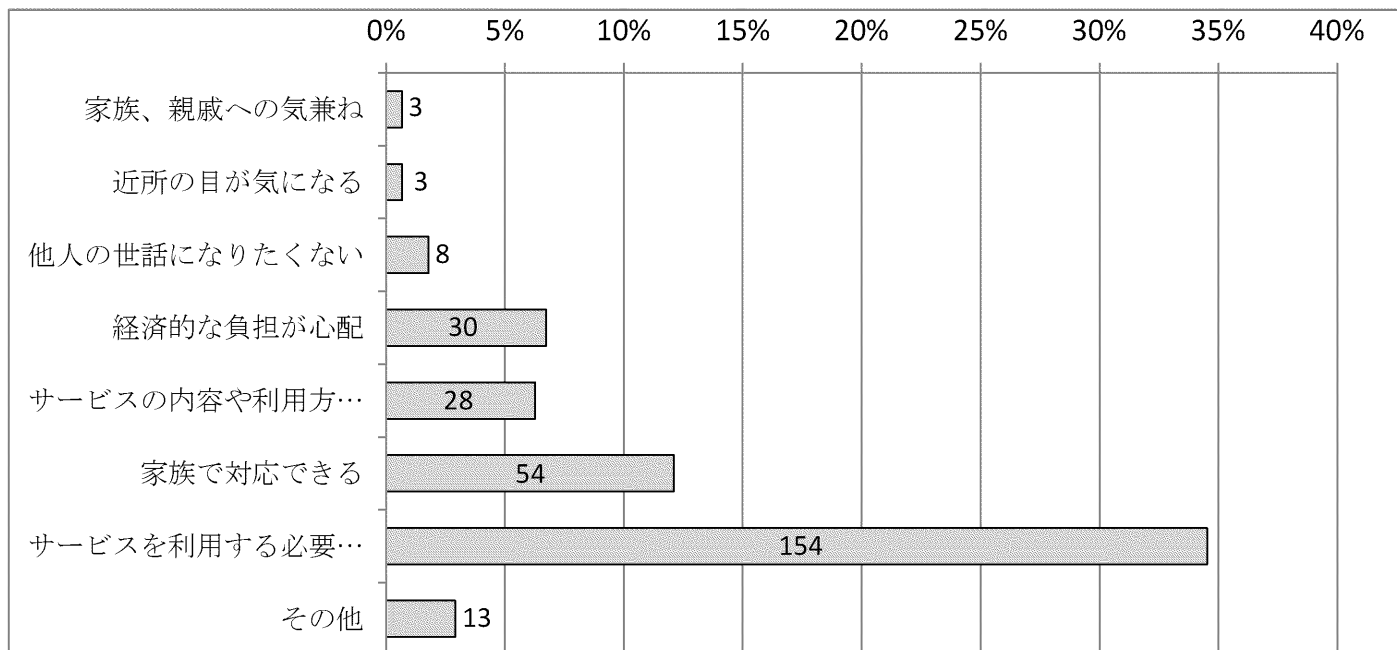


問 19 - 2

※問 19 で利用経験がないと答えた者

これまで福祉サービスを利用していない理由はなんですか。

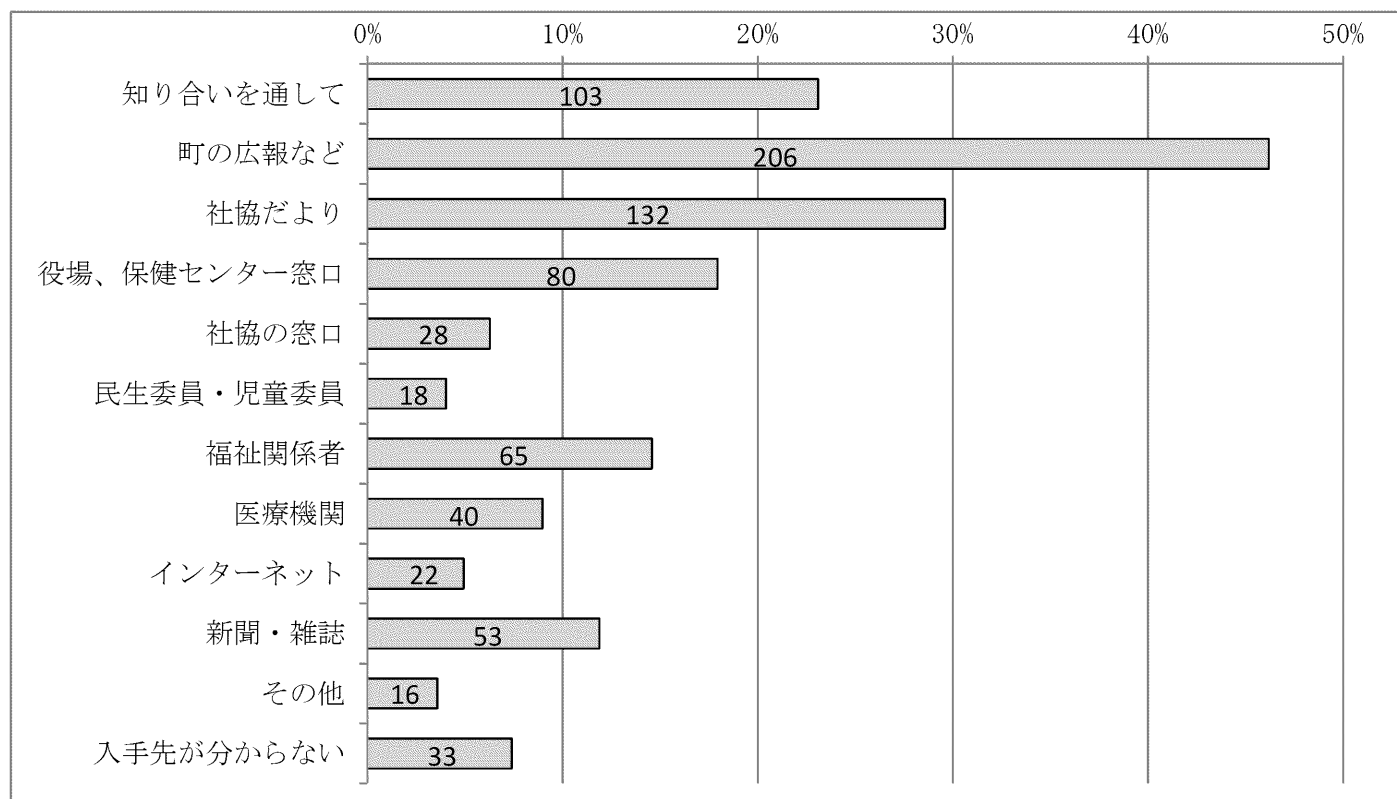
1. 家族、親戚への気兼ね 2. 近所の目が気になる 3. 他人の世話になりたくない
4. 経済的な負担が心配 5. サービスの内容や利用方法が分からない 6. 家族で対応できる
7. サービスを利用する必要がない 8. その他



問 20

あなたは福祉に関してどのような手段で情報を得ていますか。

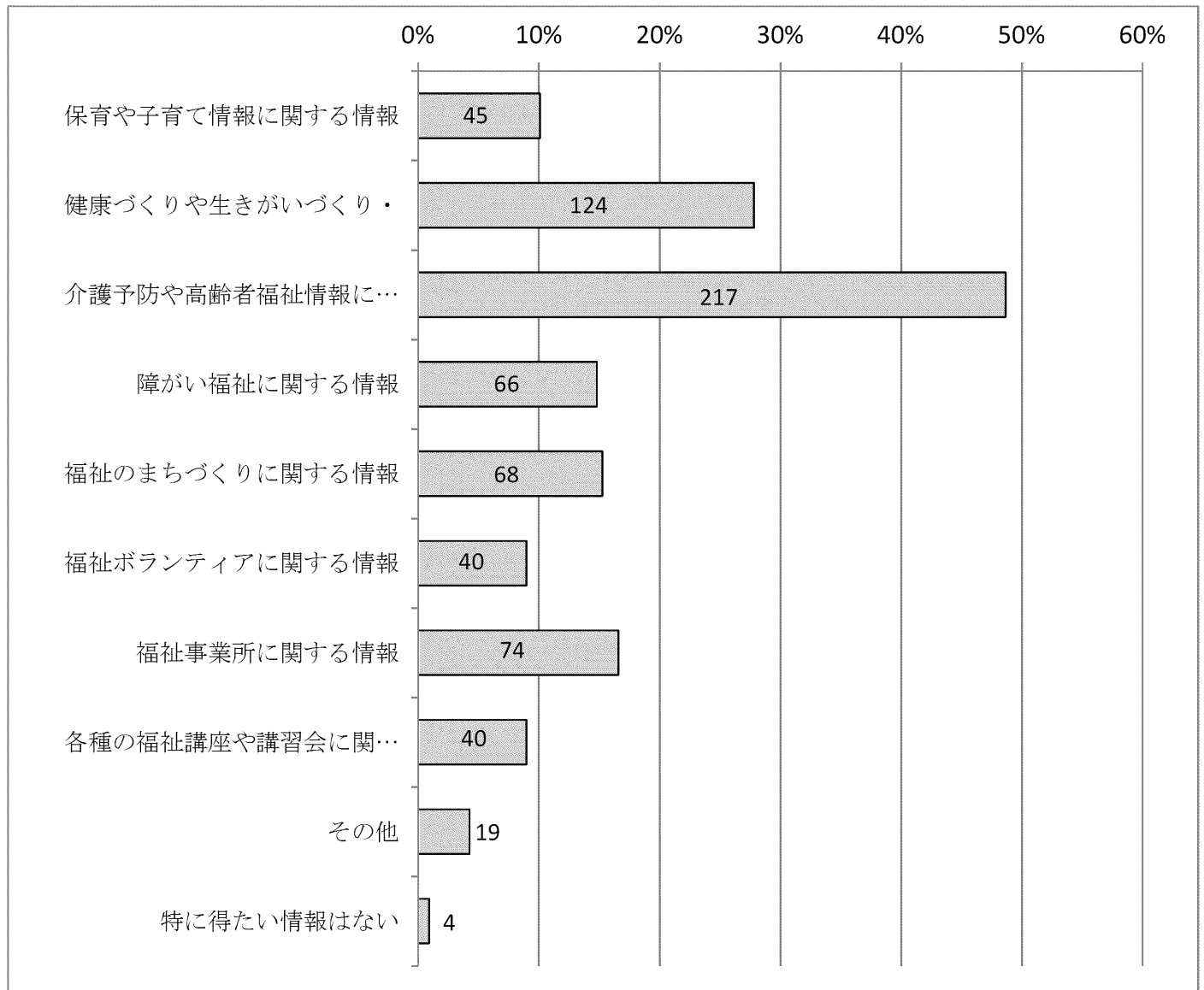
1. 知り合いを通して 2. 町の広報など 3. 社協だより 4. 役場、保健センター窓口
5. 社協の窓口 6. 民生委員・児童委員 7. 福祉関係者 8. 医療機関
9. インターネット 10. 新聞・雑誌 11. その他 12. どこで入手すればよいか分からない



問 2 1

あなたは福祉に関してどのような情報を得たいですか。

1. 保育や子育てに関する情報 2. 健康づくりや生きがいづくりに関する情報
3. 介護予防や高齢者福祉に関する情報 4. 障がい福祉に関する情報
5. 福祉のまちづくりに関する情報 6. 福祉ボランティアに関する情報
7. 福祉事業所に関する情報 8. 各種の福祉講座や講習会に関する情報
9. 各種施設等での就労に関する情報 10. その他 11. 特に得たい情報はない

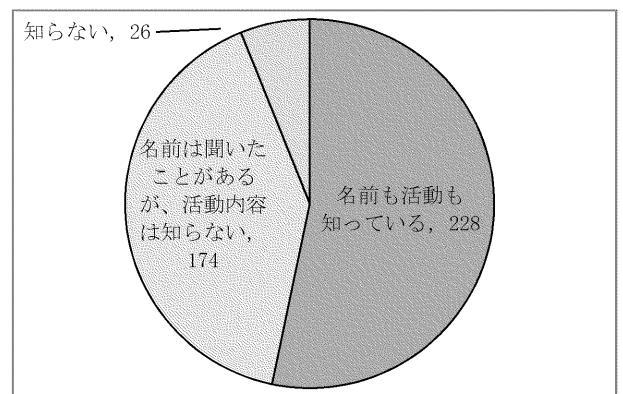


6. 社会福祉協議会について

問 2 2

三戸町の社会福祉協議会をご存知ですか

1. 名前も活動内容も知っている
2. 名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない
3. 知らない

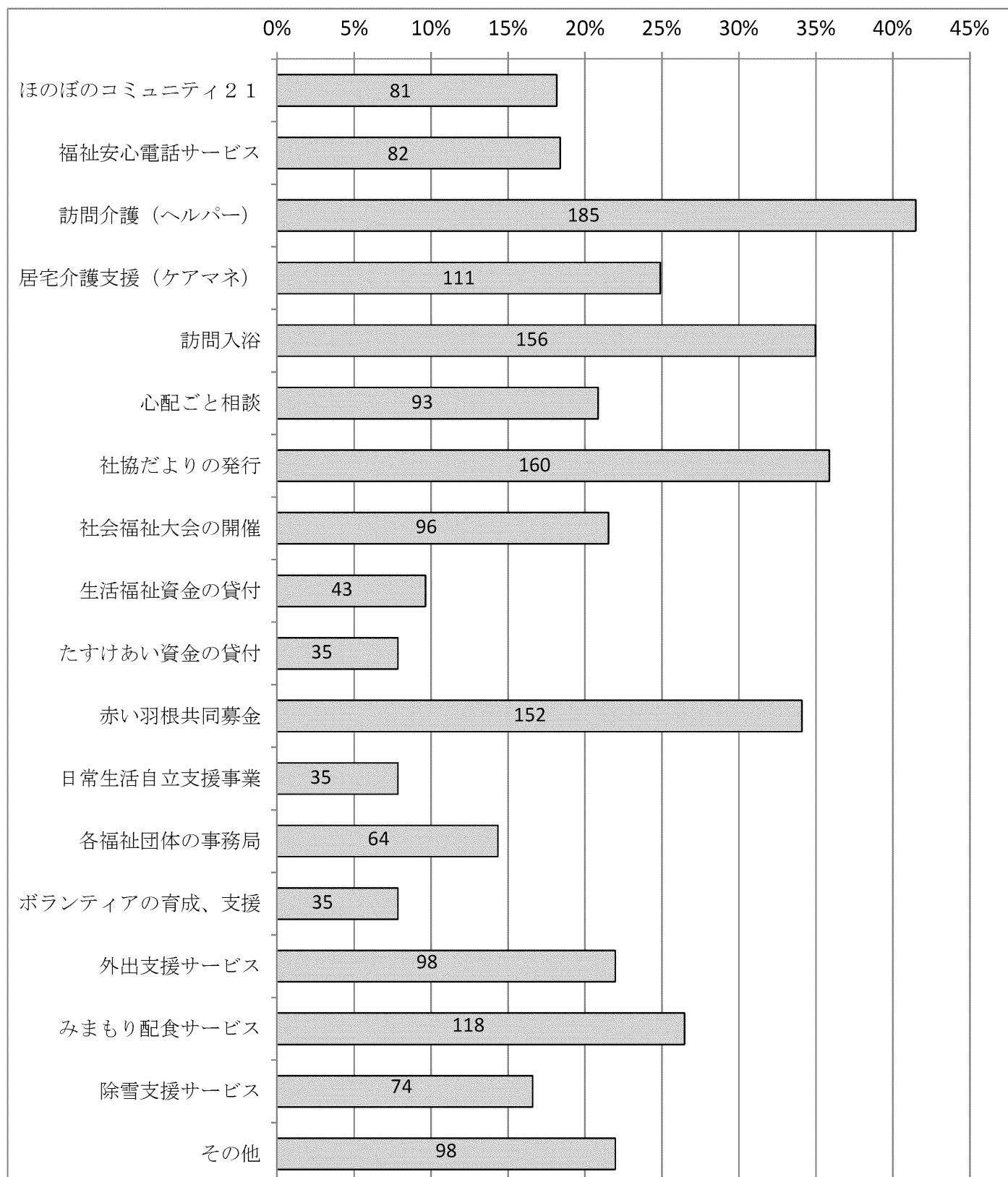


問 2 2 - 1

※問 2 2 で名前も活動も知っているとした者

あなたの知っている社会福祉協議会の活動は次のどれですか。

1. ほのぼのコミュニティ 2 1 2. 福祉安心電話サービス 3. 訪問介護（ヘルパー）
 4. 居宅介護支援（ケアマネ） 5. 訪問入浴 6. 心配ごと相談 7. 社協だよりの発行
 8. 社会福祉大会の開催 9. 生活福祉資金の貸付 10. たすけあい資金の貸付
 11. 赤い羽根共同募金 12. 日常生活自立支援事業 13. 各福祉団体の事務局
 14. ボランティアの育成、支援 15. 外出支援サービス 16. みまもり配食サービス
 17. 除雪支援サービス 18. その他

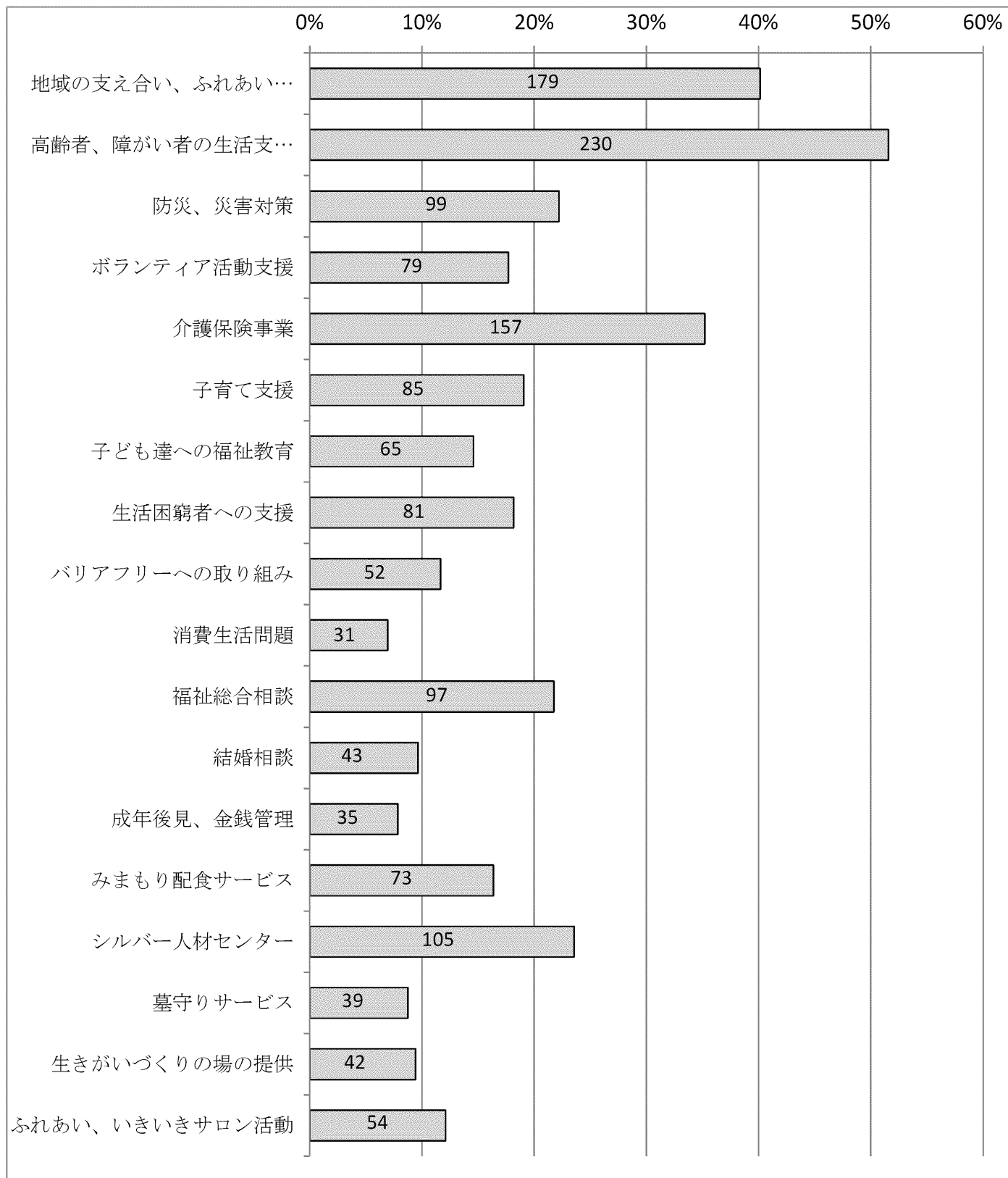


問 2 3

※問 2 2 で名前も活動も知っているとした者

社会福祉協議会が行う活動支援として、積極的に実施すべき事業はどれですか。

1. 地域の支え合い、ふれあい、見守り 2. 高齢者、障がい者の生活支援 3. 防災、災害対策
 4. ボランティア活動支援 5. 介護保険事業 6. 子育て支援 7. 子ども達への福祉教育
 8. 生活困窮者への支援 9. バリアフリーへの取り組み 10. 消費生活問題 11. 福祉総合相談
 12. 結婚相談 13. 成年後見、金銭管理 14. みまもり配食サービス
 15. シルバー人材センター 16. 墓守りサービス 17. 生きがいつくりの場の提供
 18. ふれあい、いきいきサロン活動

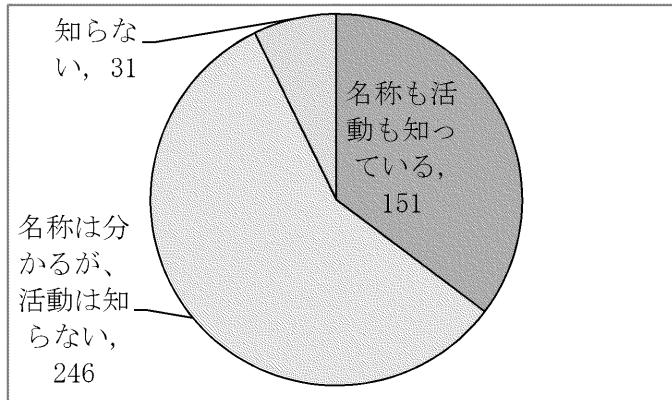


7. 民生委員・児童委員について

問 2 4

民生委員・児童委員を知っていますか。

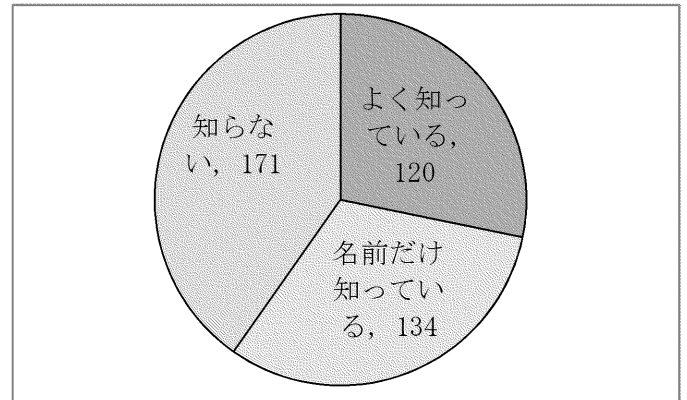
1. 名称も活動内容も知っている
2. 名称は聞いたことがあるが、活動内容は知らない
3. 知らない



問 2 5

あなたは地区担当の民生委員・児童委員をご存知ですか。

1. よく知っている
2. 名前は知っている
3. 知らない

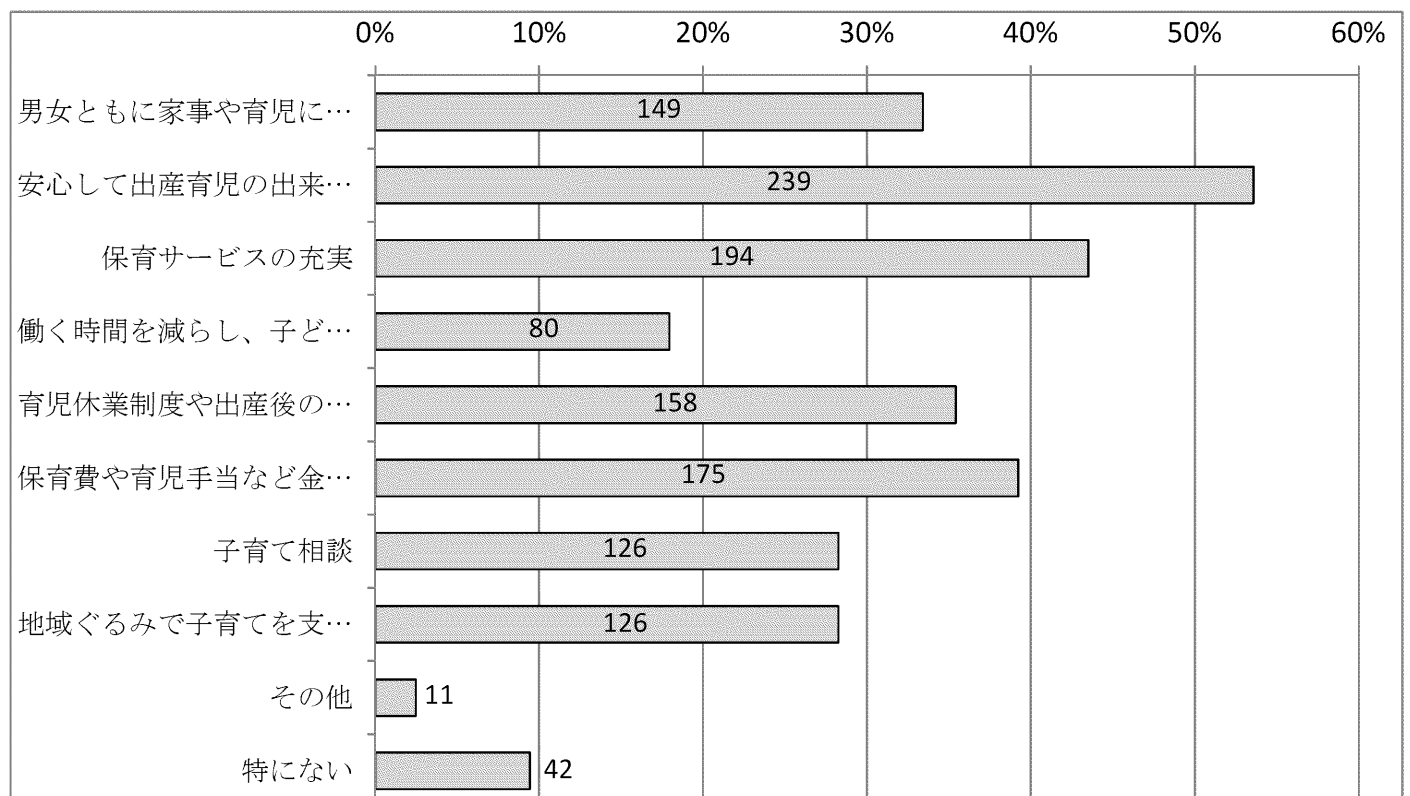


8. これからの福祉のあり方について

問 2 6

子どもたちやその家族が住みよいまちをつくるために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。

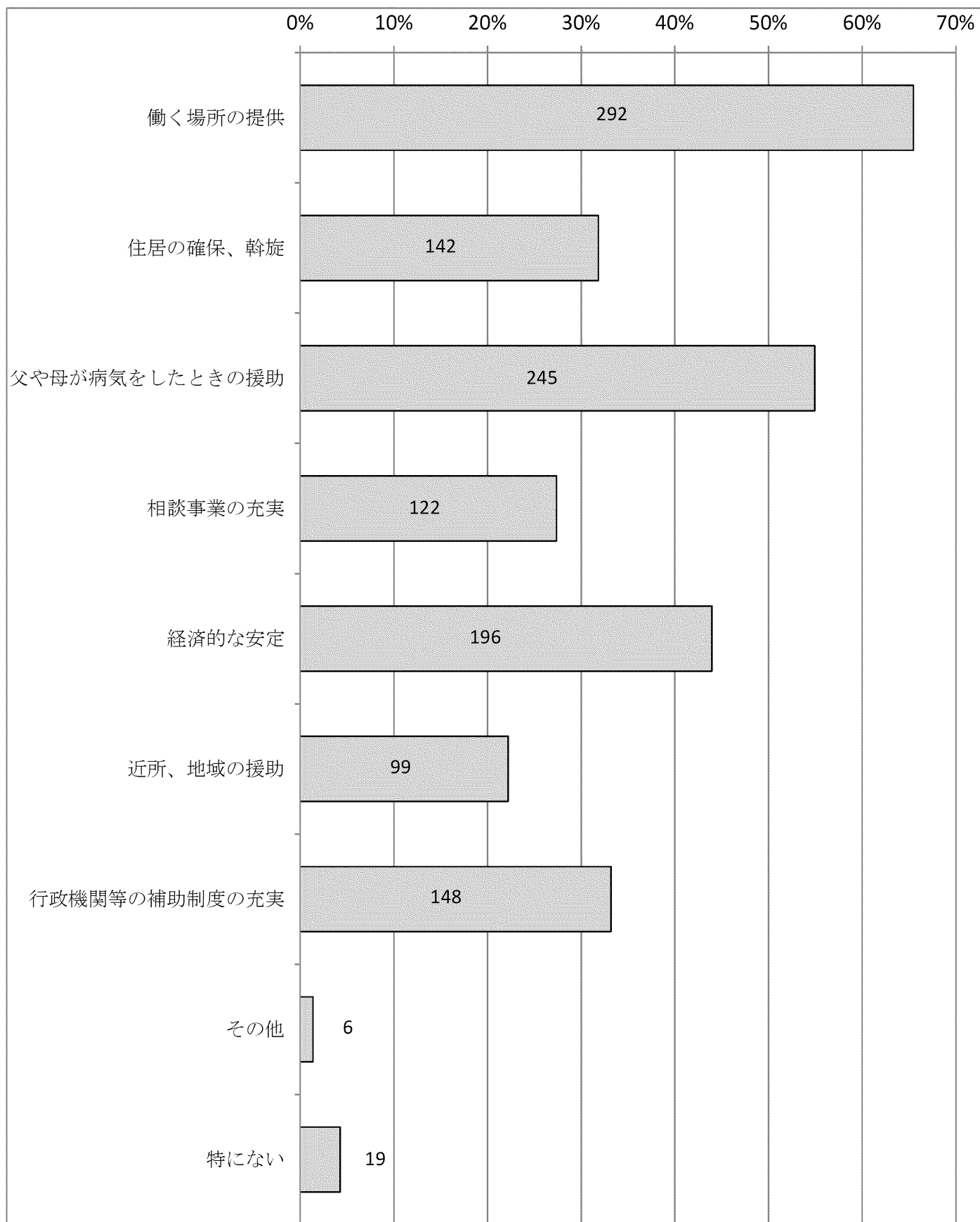
1. 男女ともに家事や育児に参加する意識づくり
2. 安心して出産育児の出来る環境の充実
3. 保育サービスの充実
4. 働く時間を減らし、子どもと過ごす時間を増やす支援
5. 育児休業制度や出産後の再雇用制度の充実
6. 保育費や育児手当など金銭的な支援
7. 子育て相談
8. 地域ぐるみで子育てを支援する体制
9. その他
10. 特にない



問 2 7

母子・父子家庭の人たちが住みよいまちをつくるために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。

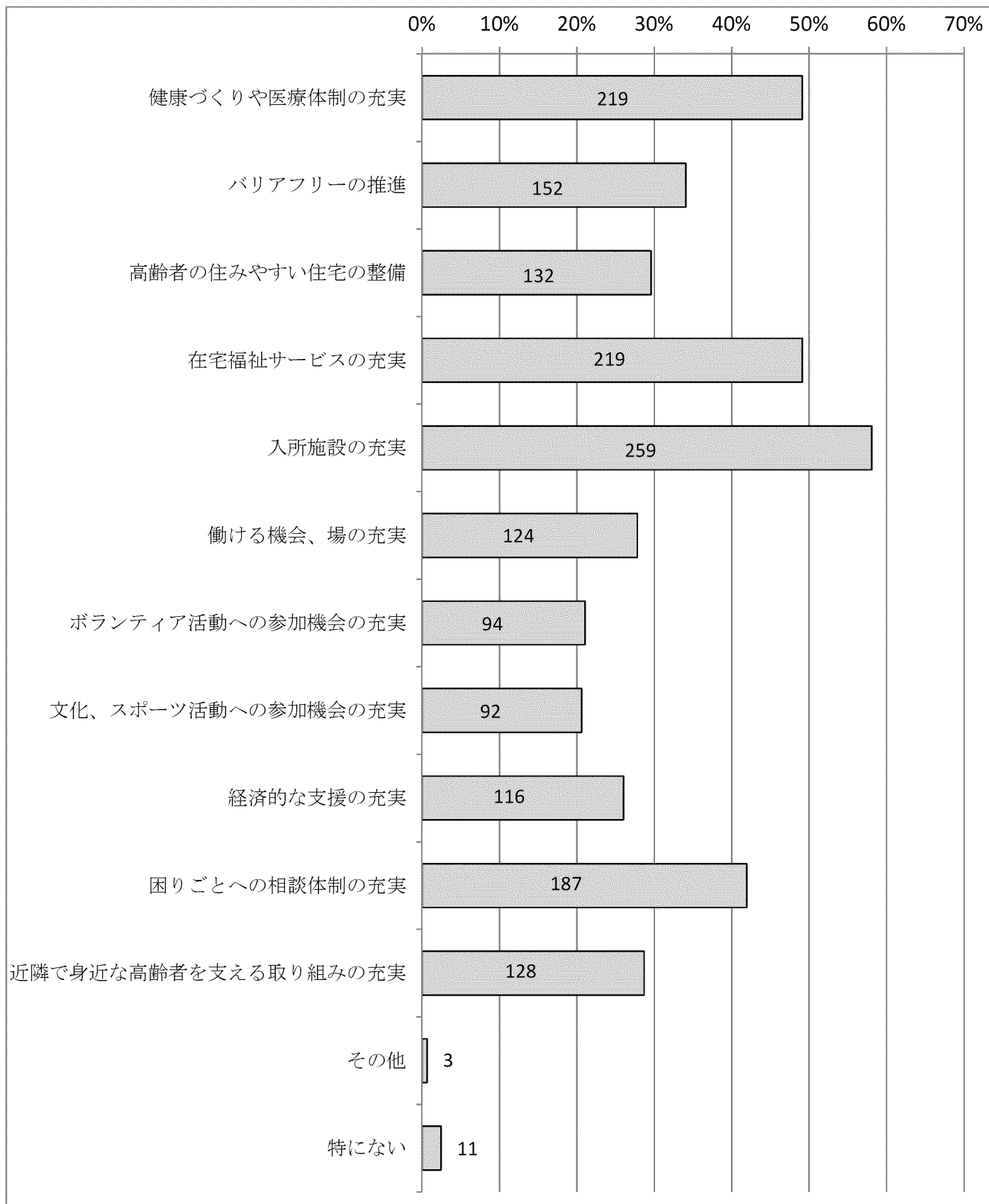
1. 働く場所の提供 2. 住居の確保、斡旋 3. 父や母が病気をしたときの援助
4. 相談事業の充実 5. 経済的な安定 6. 近所、地域の援助 7. 行政機関等の補助制度の充実
8. その他 9. 特にない



問 28

高齢者の人たちが住みよいまちをつくるために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。

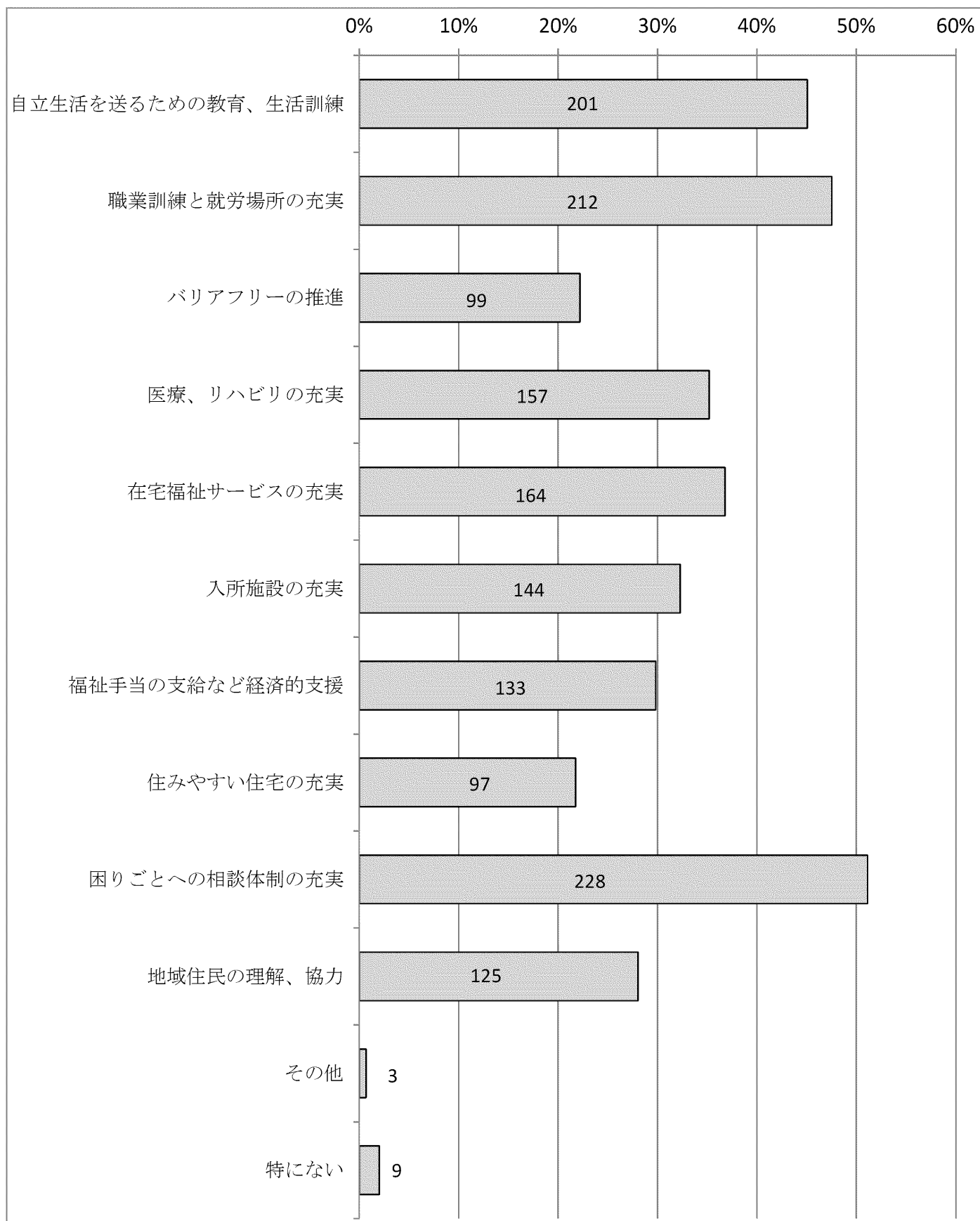
1. 健康づくりや医療体制の充実 2. バリアフリーの推進 3. 高齢者の住みやすい住宅の整備
 4. 在宅福祉サービスの充実 5. 入所施設の充実 6. 働ける機会、場の充実
 7. ボランティア活動への参加機会の充実 8. 文化、スポーツ活動への参加機会の充実
 9. 経済的な支援の充実 10. 困りごとへの相談体制の充実
 11. 近隣で身近な高齢者を支える取り組みの充実 12. その他 13. 特にない



問 2 9

障がいのある人たちが住みよいまちをつくるために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。

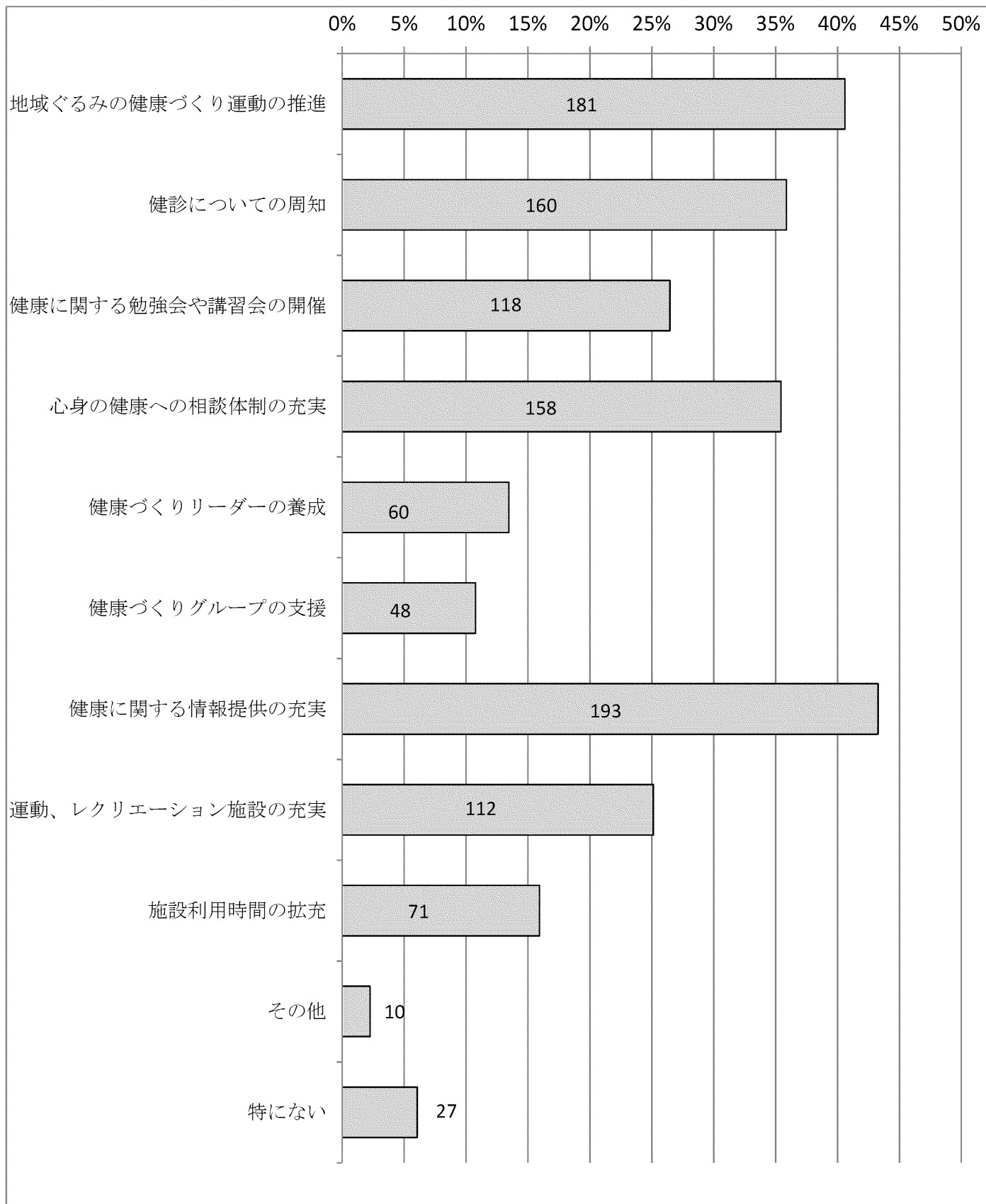
1. 自立生活を送るための教育、生活訓練 2. 職業訓練と就労場所の充実 3. バリアフリーの推進
4. 医療、リハビリの充実 5. 在宅福祉サービスの充実 6. 入所施設の充実
7. 福祉手当の支給など経済的支援 8. 住みやすい住宅の充実 9. 困りごとへの相談体制の充実
10. 地域住民の理解、協力 11. その他 12. 特にない



問 3 0

地域で健康づくりをすすめていくためには、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。

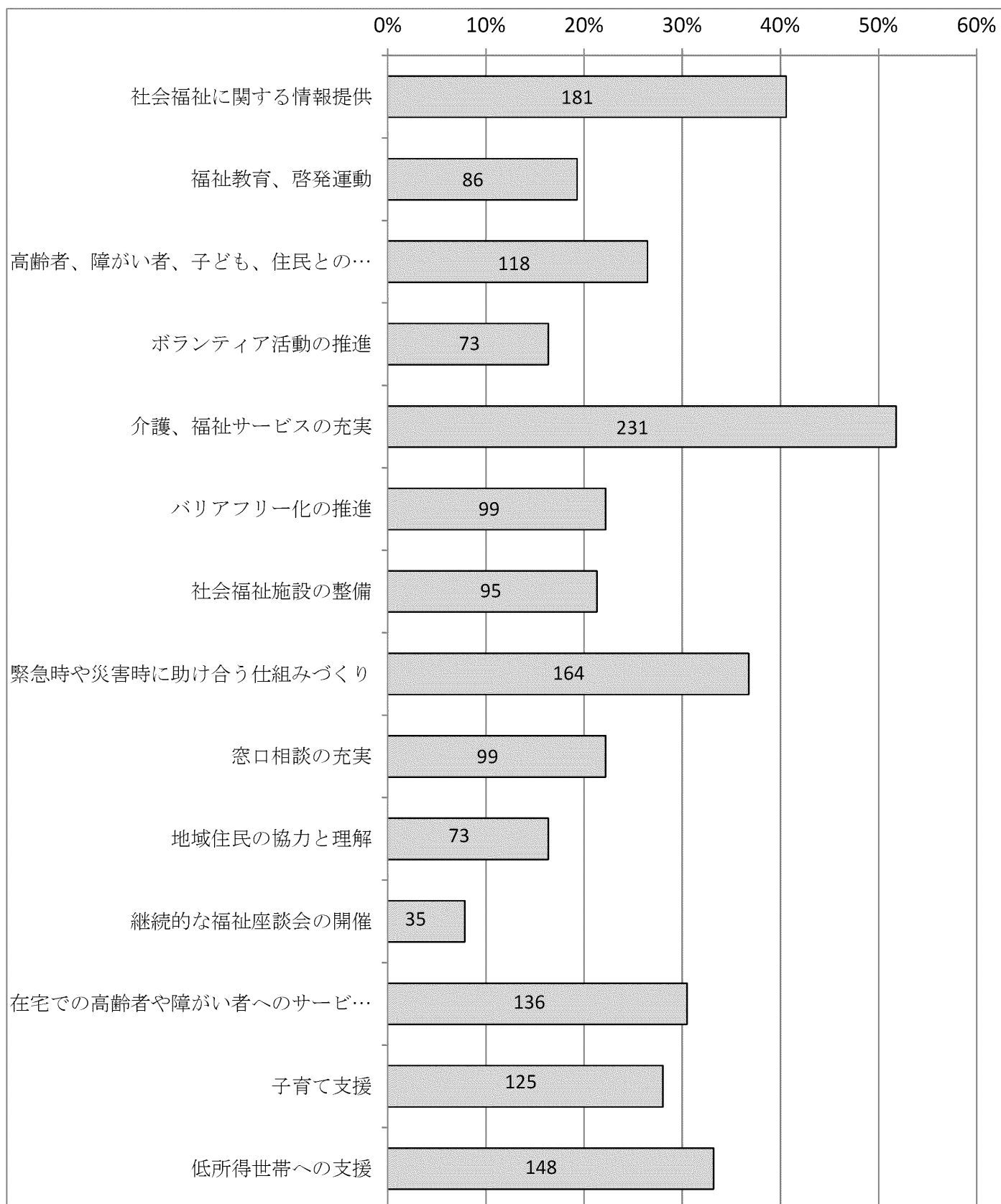
1. 地域ぐるみの健康づくり運動の推進 2. 健診についての周知
 3. 健康に関する勉強会や講習会の開催 4. 心身の健康への相談体制の充実
 5. 健康づくりリーダーの養成 6. 健康づくりグループの支援
 7. 健康に関する情報提供の充実 8. 運動、レクリエーション施設の充実
 9. 施設利用時間の拡充 10. その他 11. 特にない



問 3 1

住み慣れた地域で、安心して暮らしていくためには、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。

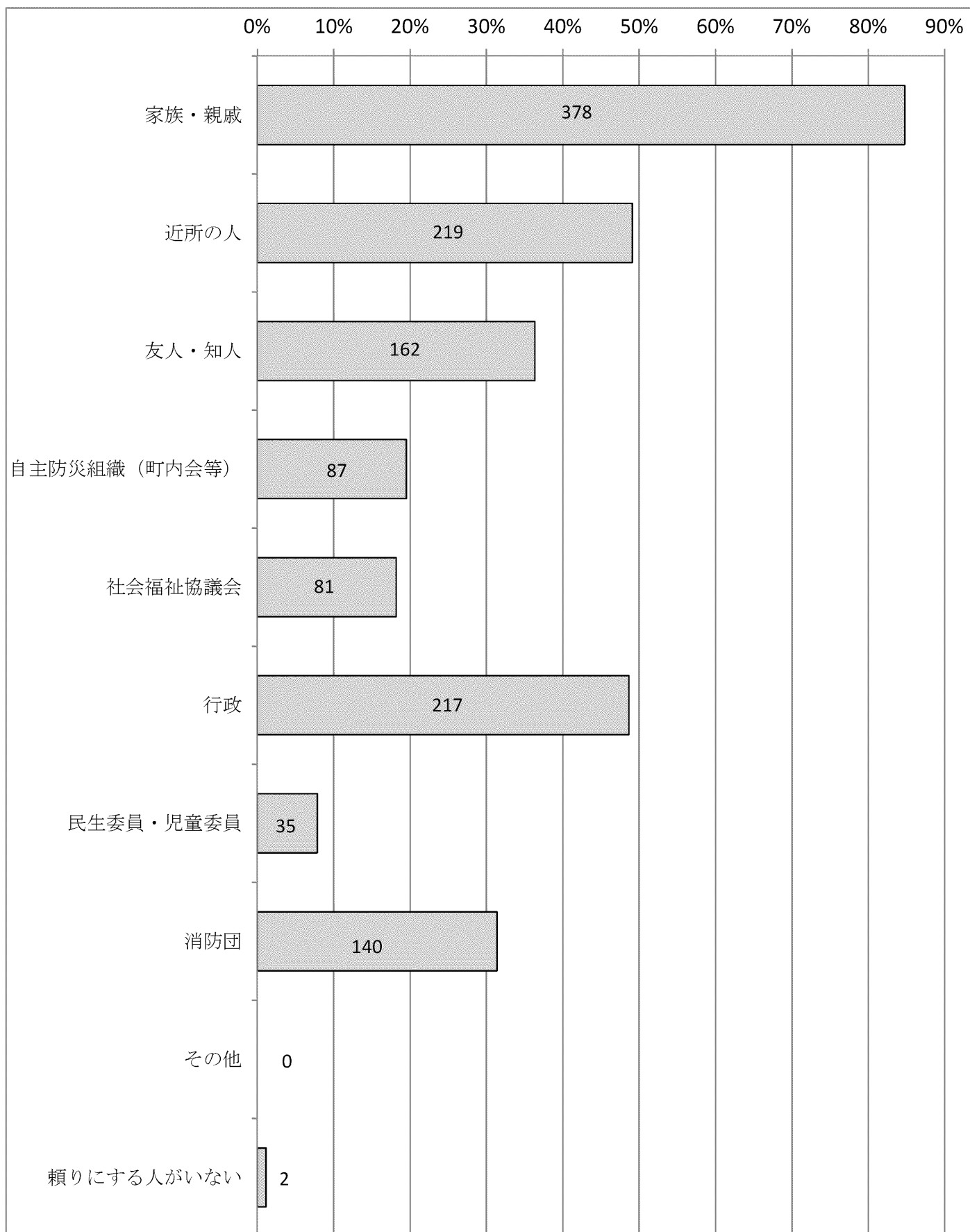
1. 社会福祉に関する情報提供 2. 福祉教育、啓発運動
 3. 高齢者、障がい者、子ども、住民との交流の場づくり 4. ボランティア活動の推進
 5. 介護、福祉サービスの充実 6. バリアフリー化の推進 7. 社会福祉施設の整備
 8. 緊急時や災害時に助け合う仕組みづくり 9. 窓口相談の充実 10. 地域住民の協力と理解
 11. 継続的な福祉座談会の開催 12. 在宅での高齢者や障がい者へのサービス拡充
 12. 子育て支援 13. 低所得世帯への支援



問 3 2

災害が起きた時、あなたは誰を頼りにしますか。

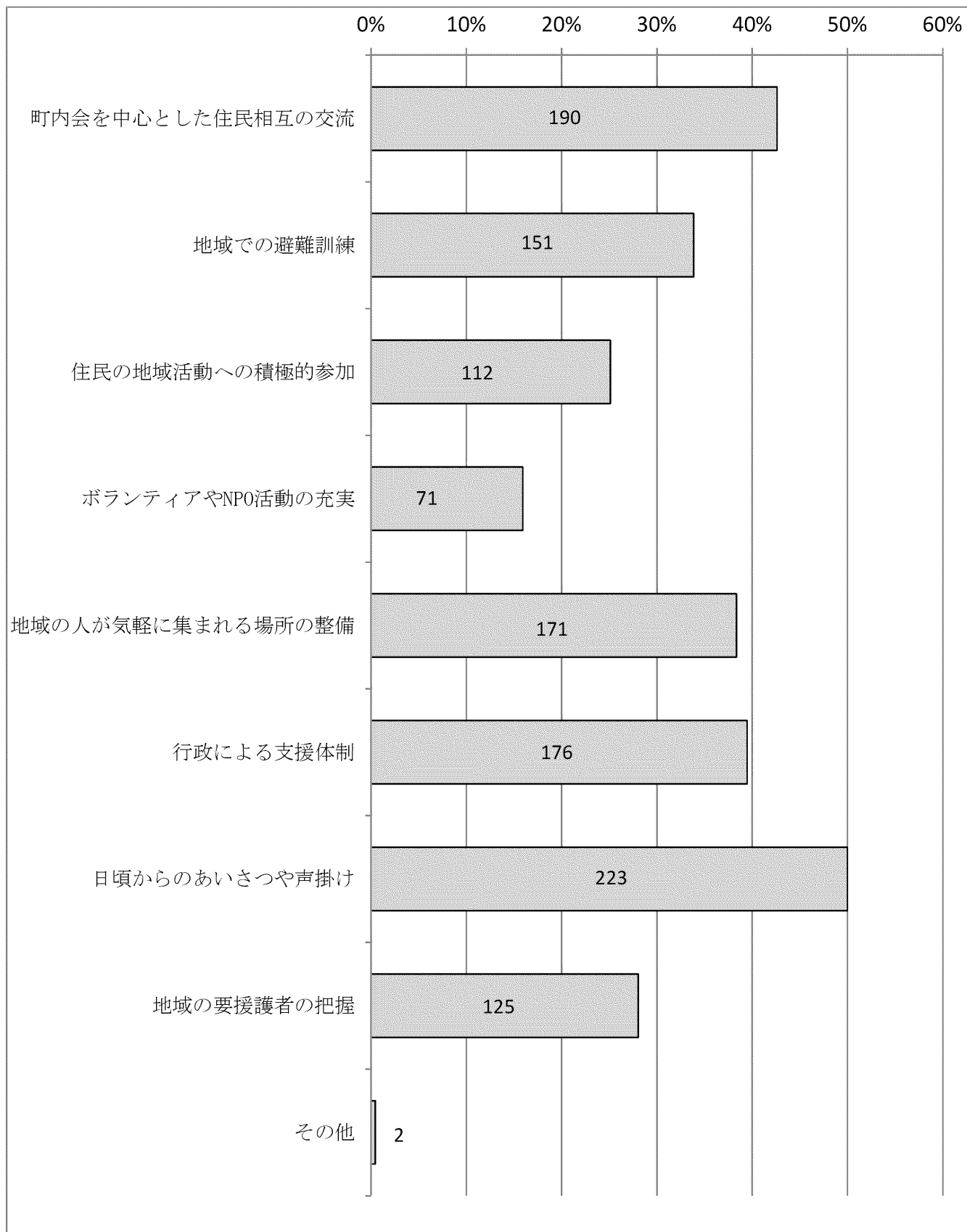
1. 家族・親戚 2. 近所の人 3. 友人・知人 4. 自主防災組織（町内会等）
5. 社会福祉協議会 6. 行政 7. 民生委員・児童委員 8. 消防団
9. その他 10. 頼りにする人がいない



問 3 3

あなたが住む地域における災害時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。

1. 町内会を中心とした住民相互の交流 2. 地域での避難訓練
 3. 住民の地域活動への積極的参加 4. 住民の地域活動への積極的参加
 5. ボランティアやNPO活動の充実 6. 地域の人が気軽に集まれる場所の整備
 7. 行政による支援体制 8. 日頃からのあいさつや声掛け 9. 地域の要援護者の把握
 10. その他



資料 2

地域福祉活動計画策定の経過

・住民アンケートの実施

	調査期間	内 容
1	平成26年1月から2月17日	『三戸町地域福祉計画』及び『三戸町地域福祉活動計画』の策定の基礎資料とすることを目的に、20歳以上の三戸町民から無作為に抽出した1,000名を対象に実施。

・三戸町地域福祉活動計画 策定委員会の開催

	年 月 日	内 容
1	平成26年7月8日	①委嘱状交付 ②組織会（委員長、副委員長の互選） ③社協会長から委員長への諮問 ④地域福祉活動計画の概要及び目的についての説明 ⑤策定スケジュールについて ⑥住民アンケート調査集計結果についての意見交換
2	平成26年9月2日	①基本理念、基本目標、実施計画についての審議・検討
3	平成26年10月14日	①実施計画についての審議・検討
4	平成27年12月17日	①委嘱状交付（新委員に対して） ②実施計画についての審議・検討
5	平成28年2月2日	①三戸町地域福祉活動計画（案）についての審議・検討
6	平成28年2月25日	①三戸町地域福祉活動計画（案）についての審議・検討 ②委員長から社協会長への答申

・三戸町地域福祉活動計画 作業部会の開催

	年 月 日	内 容
1	平成26年7月17日	①委嘱状交付 ②組織会 ③社協会長から委員長への諮問 ④地域福祉活動計画の概要及び目的についての説明 ⑤策定スケジュールについて ⑥住民アンケート調査集計結果についての意見交換
2	平成26年8月19日	①基本理念、基本目標、実施計画についての審議・検討
3	平成26年10月2日	①実施計画についての審議・検討
4	平成27年12月7日	①実施計画についての審議・検討
5	平成28年1月21日	①三戸町地域福祉活動計画（案）についての審議・検討
6	平成28年2月12日	①三戸町地域福祉活動計画（案）についての審議・検討

・三戸町地域福祉活動計画についての理事会・評議員会・専門委員会への提案及び報告

	年 月 日	内 容
1	平成28年1月27日	①事業運営部会への三戸町地域福祉活動計画（案）の中間報告
2	平成28年2月1日	①総務部会への三戸町地域福祉活動計画（案）の中間報告
3	平成28年2月10日	①理事会への三戸町地域福祉活動計画（案）の中間報告
4	平成28年3月	①理事会への三戸町地域福祉活動計画（最終案）の提案
5	平成28年3月	①評議員会への三戸町地域福祉活動計画（最終案）の提案

資料 3

三戸町地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

（目 的）

第1条 委員会は、社会福祉法人三戸町社会福祉協議会会長（以下「会長」という。）の諮問に応え、三戸町地域福祉活動計画（以下「活動計画」という。）を策定することを目的とする。

（名 称）

第2条 委員会は、三戸町地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）と称する。

（任 務）

第3条 委員会は、活動計画策定に関する次の事項を任務とする。

- （1）活動計画基本計画（案）の策定
- （2）活動計画実施計画（案）の策定
- （3）その他計画策定のために必要な事項

（委員の構成）

第4条 委員会の委員は、各関係機関から会長が委嘱する。

- 2 委員の定数は15名以内とする。
- 3 委員の任期は委嘱の日から活動計画の策定完了までとする。
- 4 補欠により選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員会の組織）

第5条 委員会には、委員の互選により委員長1名及び副委員長1名を置く。

- 2 委員長は委員会を代表し、会務を掌理する。
- 3 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるとき若しくは欠けたときは、その職務を代理する。

（会 議）

第6条 委員会は委員長が招集し、委員長が議長となる。

- 2 委員会は、必要に応じ関係者等の出席を求め、説明および意見を聞くことができる。

（作業部会）

第7条 活動計画の策定に関し、必要な資料の収集及びその他各種の研究並びに活動計画の原案作成を行うために作業部会を設置する。

- 2 作業部会員は、社会福祉法人三戸町社会福祉協議会職員及び三戸町職員並びに関係機関から会長が委嘱する。
- 3 作業部会は、必要に応じ関係者等の出席を求め、説明および意見を聞くことができる。
- 4 作業部会は会長が招集する。
- 5 作業部会員の任期は委嘱の日から活動計画の策定完了までとする。
- 6 補欠により選任された作業部会員の任期は、前任者の残任期間とする。

（事務局）

第8条 委員会及び作業部会の事務局は、社会福祉法人三戸町社会福祉協議会に置く。

（委 任）

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営その他必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成26年6月1日から施行する。

資料 4

三戸町地域福祉活動計画 策定委員会 委員名簿 (※敬称略 50 音順)

	氏 名	役 職	区 分	備 考
1	五十嵐 孝一	三戸町教育委員会 事務局長	社会教育	
2	井ノ口 幸子	ミューズ保育園 園長	福祉施設 (幼)	
3	大久保 美佐	特別養護老人ホーム鶴亀荘 事務長	福祉施設 (高)	H27. 12. 17～
4	工藤 和子	三戸町ひまわりの会 会長	福祉団体 (介)	
5	工藤 匡史	三戸町身体障害者福祉会 会長	福祉団体 (障)	副委員長
6	小坂 志朗	三戸町住民福祉課 課長	行政	
7	天摩 雅和	八戸学院短期大学幼児保育学科 准教授	学識経験者	委員長
8	豊川 栄治	三戸町商工会 事務局長	商工会	
9	豊川 和子	三戸町民生委員児童委員協議会 副会長	民児協	
10	中村 喜三郎	三戸町老人クラブ連合会 副会長	福祉団体 (高)	H26. 7. 8～H27. 4. 30
11	中村 孝子	三戸町健康推進課 課長	行政	
12	馬場 浩治	特別養護老人ホーム鶴亀荘 施設長	福祉施設 (高)	H26. 7. 8～H27. 12. 16
13	藤村 立夫	三戸町内会連合会 会長	住民自治	
14	松尾 和子	まちの楽校代表	民間団体	
15	松原 清治	三戸町老人クラブ連合会 会長	福祉団体 (高)	H27. 5. 1～
16	山下 正一	三戸町民生委員児童委員協議会 会長	民児協	

資料 5

三戸町地域福祉活動計画 作業部会 部員名簿 (※敬称略 50 音順)

	氏 名	所属	備考
1	石川 幸代	三戸町役場健康推進課	
2	井畑 百香	三戸町役場住民福祉課	
3	太田 千秋	三戸町社会福祉協議会居宅支援事業	H26. 7. 17～H27. 12. 6
4	工藤 千津子	三戸町社会福祉協議会訪問介護事業	H27. 12. 7～
5	堺 妙子	三戸町社会福祉協議会居宅支援事業	
6	武田 利明	三戸町役場住民福祉課	
7	立花 香平	三戸町社会福祉協議会事務局	
8	田中 尚恵	三戸町役場健康推進課	H26. 7. 17～H27. 12. 6
9	手塚 栄利子	三戸町社会福祉協議会訪問入浴	
10	手塚 克則	地域住民代表	
11	中野 ひろ子	三戸町社会福祉協議会居宅介護支援	
12	馬場 進	地域住民代表	
13	平沢 智子	三戸町社会福祉協議会事務局	
14	平山 雄貴	三戸町社会福祉協議会事務局	
15	武士沢 栄子	三戸町いちご会	
16	二又 高志	地域住民代表	
17	船場 寛之	三戸町役場住民福祉課	H26. 7. 17～H27. 3. 31
18	米田 真里子	三戸町社会福祉協議会障害福祉サービス	H27. 12. 7～
19	松原 幸子	三戸町役場健康推進課	H27. 12. 7～
20	水梨 由真	三戸町社会福祉協議会事務局	
21	本木 正範	三戸町社会福祉協議会地域活動支援センター憩いの森あすもこっ	

資料 6

用語集（五十音順）

協働

同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと。

合計特殊出生率

15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が一生の間に生む子どもの数を表したもの。

コミュニティ

居住地域を同じくし、利害をともにする共同社会。町村・都市・地方など、生産・自治・風俗・習慣などで深い結びつきをもつ共同体。

サロン

地域住民である担い手と参加者が主体となって、地域で互いに繋がりを持てる集いの場所、機会。高齢者や障がい者、子育てのサロンなど多様な形態が見られる。

小地域ネットワーク

小地域（概ね各町内会）を単位に、保健・医療・福祉の関係者と住民が協働して共に支え合うことができる地域づくりを行うこと。

ターミナル

ターミナルケア。終末期医療、終末期看護とも言われ、余命わずかな人に行うケアのこと。認知症では、一般的に寝たきりになり介助をしても食べることが困難になった時から、終末期とされることが多い。

地域包括支援センター

市町村が設置主体となって、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員等を配置して、3職種のチームアプローチにより、住民の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする施設。

ニーズ

生存や幸福、充足を求める身体的・精神的・経済的・文化的・社会的な要求。

ノーマライゼーション

すべての人が住みなれた地域で、ともに暮らし、ともに生きる社会が自然な社会であるという考え方。

バリアフリー

「障壁（バリア）のない」という意味の英語で、その障壁を取り除くためのしくみ。段差などの物理的なバリアに限らず、偏見や無理解などの心のバリア、制度のバリアなど広い意味で使われつつある。

ボランティア

ボランティア活動。身近なところで出来ることを、自らすすんで活動すること。

リフレッシュ

元気を回復させること。気分を一新させること。

レクリエーション

本人の自由な意志によって、楽しい気持ちを起こさせ、心豊かなコミュニケーションの手段として行うもの。歌や踊り、ジャンケンを使ったものなど様々な手法がとられる。

NPO法人

特定非営利活動法人とも言い換えられ、ボランティア団体や市民活動団体などの様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない「民間非営利組織」を言う。